# 令和７年度
# 男女共同参画社会づくりのための
# 佐賀県民意識調査報告書
# （概要版）

令和８年４月

佐賀県　健康福祉部　男女参画・こども局

男女参画・女性の活躍推進課

# 第１章　調査概要

## １. 調査目的

本調査は、令和３年度から令和７年度を計画期間とする「佐賀県男女共同参画基本計画（第５次計画）」の次期計画策定に先立ち、県民の男女共同参画に関する意識を把握するとともに、性別及び年代別の課題やニーズを明確化し、今後の男女共同参画社会の実現に向けた施策の立案及び推進に資する基礎資料を収集・分析することを目的とする。

## ２. 調査実施期間

令和７年 11 月 10 日（月）から令和７年 12 月 17 日（水）まで

## ３. 調査対象

（１）業務の対象範囲　　佐賀県全域

（２）業務の対象者　　佐賀県に在住する 18 歳以上の男女

（３）サンプル数　　4,000 人

（４）サンプルの抽出方法　各市町選挙管理委員会所管の「選挙人名簿」から無作為抽出

## ４. 調査方法

郵送により送付、紙媒体及び Web 回答

## ５. 調査主体

佐賀県 健康福祉部 男女参画・こども局 男女参画・女性の活躍推進課

## ６. 調査結果監修

内田　信子　氏（学校法人旭学園　理事長）

荒木　薫　氏（佐賀大学ダイバーシティ推進室　室長）

## ７. 調査委託先

一般社団法人　長崎交流センター

## ８. 参考資料

令和２年度　佐賀県「男女共同参画社会づくりのための佐賀県民意識調査報告書」

令和６年度　内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

## ９. 回収結果

本調査の配布数及び回収結果は下記の通り。

配布数：4,000 件　回答数：1,713 件　回答率：42.8％

〈参考〉

アンケート票数と誤差との関係は、当然アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が多いと誤差は小さくなる。しかし、統計学において、アンケート票数と誤差の関係については、一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなることが知られている。この「一定の数」は、下記の計算式によって表される。

$$\sigma = k\sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団　　n：有効回答数　　p：結果の比率
K：信頼率による定数　　σ：標本誤差

必要サンプル数を計算すると　n=383.92 となる。
※M=647,207（令和 7 年 4 月 1 日時点の 18 歳以上人口）
※p については、安全側を取り、比率の標準偏差√p(1-p)が最大となる 0.5 を用いる。
※k は信頼率を決めると自動的に決まる定数で、信頼率に対応する標準正規分布の%点である。信頼率は、統計的な慣習として 95%とすることが多く、信頼率 95%ならばｋは 1.96 となる。
※標本誤差については、統計学的に誤差を 3～5%に抑えたいため、今回は 5%として 0.05 を用いる。

今回の調査においては、有効回答数が 1,713 件であり、対象者の意向の把握として十分信頼性があるといえる。

ただし、付問等により回答数が少なくなった場合は信頼性が担保されない可能性があり、参考程度にとどめておく必要がある。

## 10. 報告書の見方

（1）比率は百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が 100%にならない場合がある。

（2）基数となる実数はｎとして掲載した。その比率は件数を 100%として算出した。

（3）１人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が 100%を上回ることがある。

（4）図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答の傾向をみる程度になる。

（5）図表の各項目は表示の関係上省略して表示する場合がある。

（6）集計対象数は「N」単一回答は「SA」、複数回答は「MA」、記述式回答は「FA」で表している。

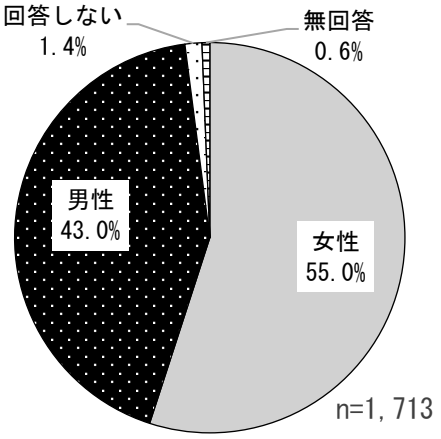
（7）単一回答（SA）に対し複数回答した場合は無効とし集計を行っている。

# 第3章　調査結果

## 1. 回答者属性

### F-1 あなたの性別は（○は１つ）

「女性」が 55.0%、「男性」が 43.0%、「回答しない」が 1.4%となっている。

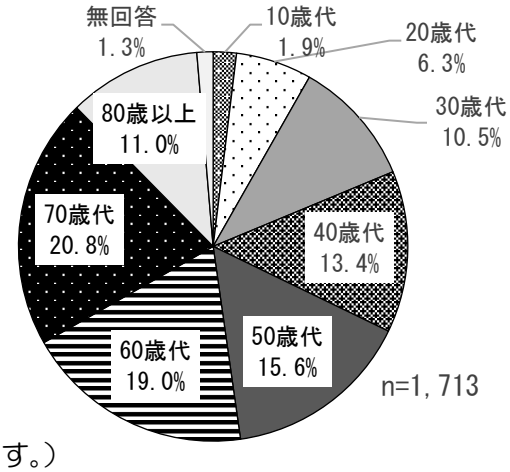



| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|---|---|---|---|
| 1 | 女性 | 942 | 55.0 |
| 2 | 男性 | 736 | 43.0 |
| 3 | 回答しない | 24 | 1.4 |
| 4 | 無回答 | 11 | 0.6 |
| | N （%ﾍﾞｰｽ） | 1,713 | 100 |

### F-2 あなたの年齢は（○は１つ）

[70 歳代]が 20.8%で最も多く、次いで「60 歳代」が 19.0%、「50 歳代」が 15.6%」と続いており、佐賀県の年齢人口比率に近い回答状況となっている。

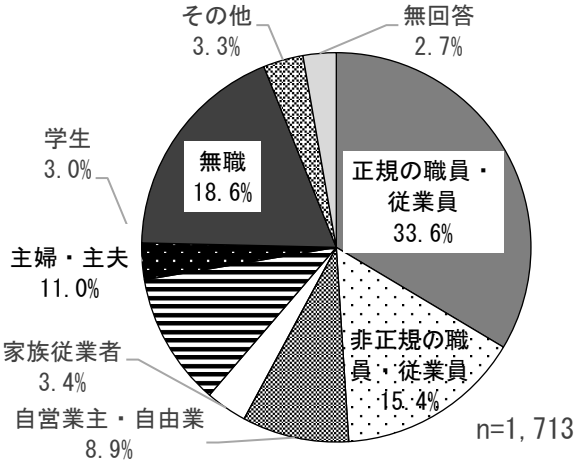
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|---|---|---|---|
| 1 | 10 歳代 | 33 | 1.9 |
| 2 | 20 歳代 | 108 | 6.3 |
| 3 | 30 歳代 | 180 | 10.5 |
| 4 | 40 歳代 | 230 | 13.4 |
| 5 | 50 歳代 | 267 | 15.6 |
| 6 | 60 歳代 | 326 | 19.0 |
| 7 | 70 歳代 | 357 | 20.8 |
| 8 | 80 歳以上 | 189 | 11.0 |
| 9 | 無回答 | 23 | 1.3 |
| | N （%ﾍﾞｰｽ） | 1,713 | 100 |




### F-３ あなたの現在のお仕事は（○は１つ）
（出産休暇や育児休業中の方も働いているものとみなします。）

「正規の職員・従業員」が 33.6%で最も多く、次いで「無職」が 18.6%、「非正規の職員・従業員」が 15.4%と続いている。

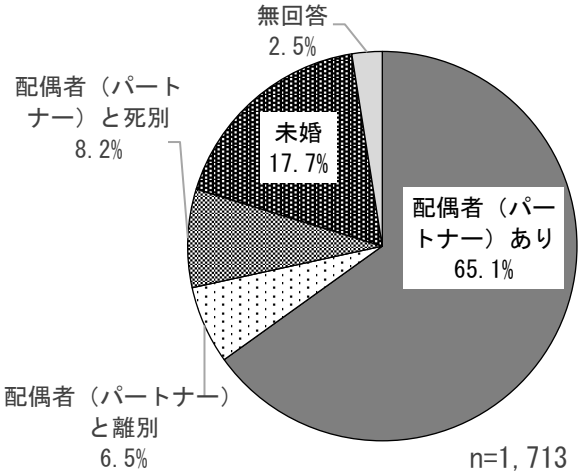
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|---|---|---|---|
| 1 | 正規の職員・従業員 | 575 | 33.6 |
| 2 | 非正規の職員・従業員 | 264 | 15.4 |
| 3 | 自営業主・自由業 | 152 | 8.9 |
| 4 | 家族従業者 | 59 | 3.4 |
| 5 | 主婦・主夫 | 189 | 11.0 |
| 6 | 学生 | 52 | 3.0 |
| 7 | 無職 | 318 | 18.6 |
| 8 | その他 | 57 | 3.3 |
| 9 | 無回答 | 47 | 2.7 |
| | N （%ﾍﾞｰｽ） | 1,713 | 100 |



## F-4 配偶者（パートナー）はいますか（○は１つ）※事実婚を含む

「配偶者（パートナー）あり」が 65.1%で最も多く、次いで「未婚」が 17.7%、「配偶者（パートナー）と死別」が 8.2%、「配偶者（パートナー）と離別」が 6.5%となっている。

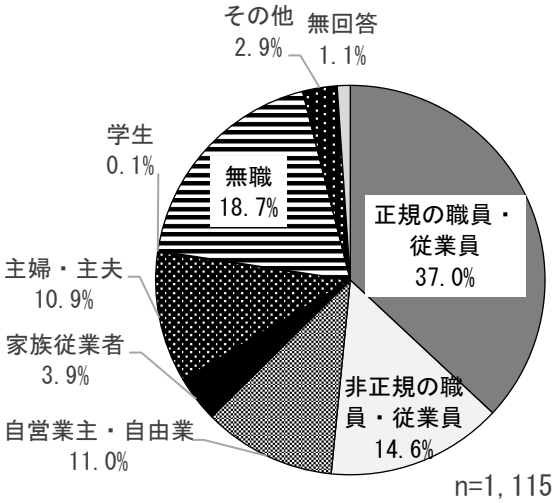
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|---|---|---|---|
| 1 | 配偶者（パートナー）あり | 1,115 | 65.1 |
| 2 | 配偶者（パートナー）と離別 | 111 | 6.5 |
| 3 | 配偶者（パートナー）と死別 | 140 | 8.2 |
| 4 | 未婚 | 304 | 17.7 |
| 5 | 無回答 | 43 | 2.5 |
| | N （%ﾍﾞｰｽ） | 1,713 | 100 |




## F-5 配偶者（パートナー）のお仕事は
（出産休暇や育児休業中の方も働いているものとみなします。）

「正規の職員・従業員」が 37.0%で最も多く、次いで「無職」が 18.7%、「非正規の職員・従業員」が 14.6%と続いている。

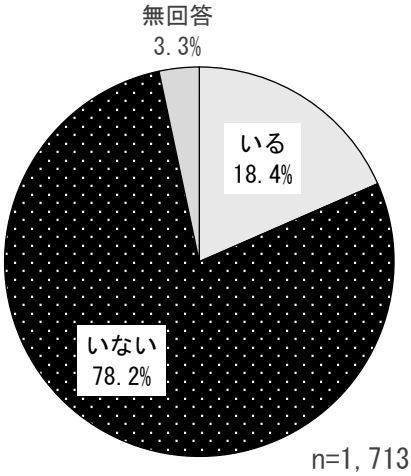
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|---|---|---|---|
| 1 | 正規の職員・従業員 | 412 | 37.0 |
| 2 | 非正規の職員・従業員 | 163 | 14.6 |
| 3 | 自営業主・自由業 | 123 | 11.0 |
| 4 | 家族従業者 | 43 | 3.9 |
| 5 | 主婦・主夫 | 121 | 10.9 |
| 6 | 学生 | 1 | 0.1 |
| 7 | 無職 | 208 | 18.7 |
| 8 | その他 | 32 | 2.9 |
| 9 | 無回答 | 12 | 1.1 |
| | N （%ﾍﾞｰｽ） | 1,115 | 100 |




## F-6 18 歳未満の子どもはいますか（○は１つ）

「いる」が 18.4%、「いない」が 78.2%となっている。

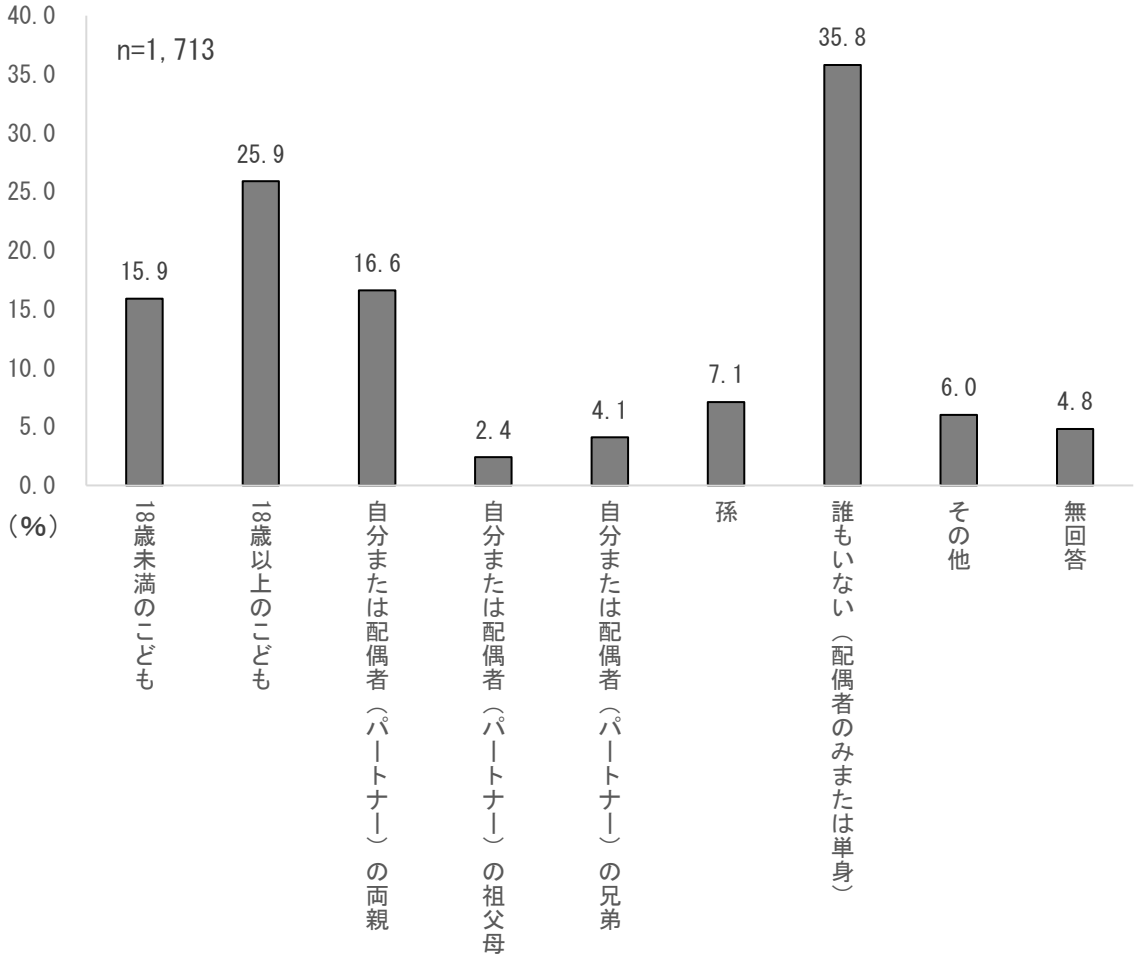
| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|---|---|---|---|
| 1 | いる | 316 | 18.4 |
| 2 | いない | 1340 | 78.2 |
| 3 | 無回答 | 57 | 3.3 |
| | N （%ﾍﾞｰｽ） | 1,713 | 100 |



## F-7 配偶者（パートナー）以外の同居家族はいますか（○はいくつでも）

「誰もいない（配偶者のみまたは単身）」が 35.8%で最も多く、次いで「18 歳以上のこども」が 25.9%、「自分または配偶者（パートナー）の両親」が 16.6%、「18 歳未満のこども」が 15.9%と続いている。

| No. | カテゴリ | 件数 | (全体)% |
|---|---|---|---|
| 1 | 18 歳未満のこども | 272 | 15.9 |
| 2 | 18 歳以上のこども | 444 | 25.9 |
| 3 | 自分または配偶者（パートナー）の両親 | 284 | 16.6 |
| 4 | 自分または配偶者（パートナー）の祖父母 | 41 | 2.4 |
| 5 | 自分または配偶者（パートナー）の兄弟 | 71 | 4.1 |
| 6 | 孫 | 122 | 7.1 |
| 7 | 誰もいない（配偶者のみまたは単身） | 614 | 35.8 |
| 8 | その他 | 103 | 6.0 |
| 9 | 無回答 | 83 | 4.8 |
| | N （%ﾍﾞｰｽ） | 1,713 | 100 |



## 2. 設問回答

【男女の地位について】

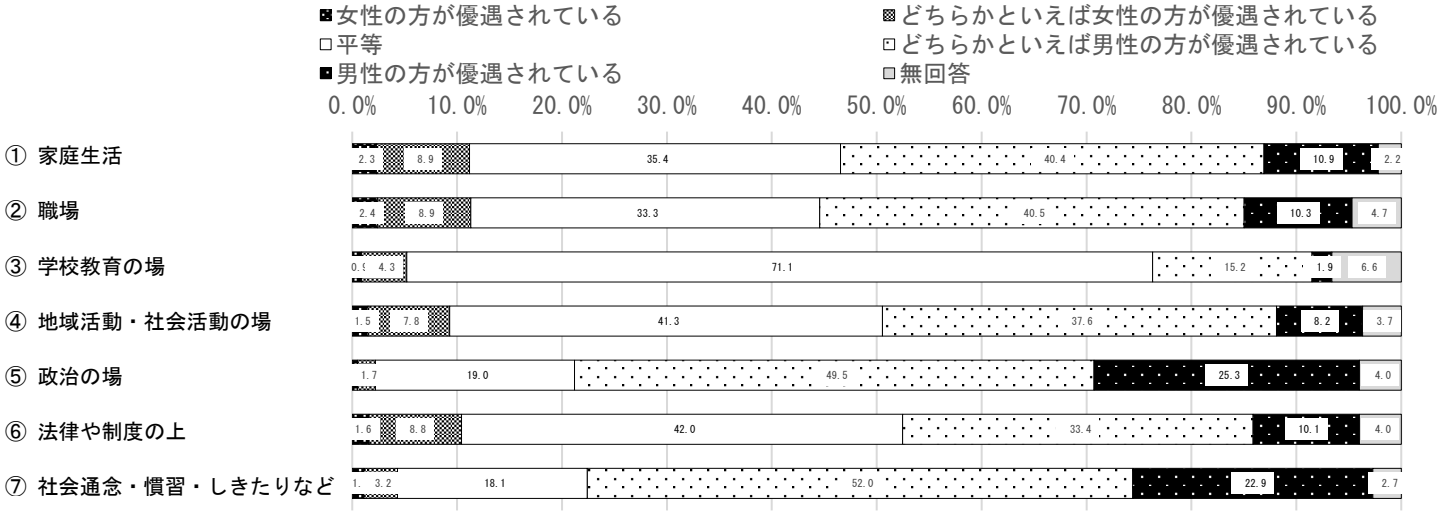
【全員がお答えください】

問１　あなたは、次にあげる①～⑦分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
（○はそれぞれ１つ）

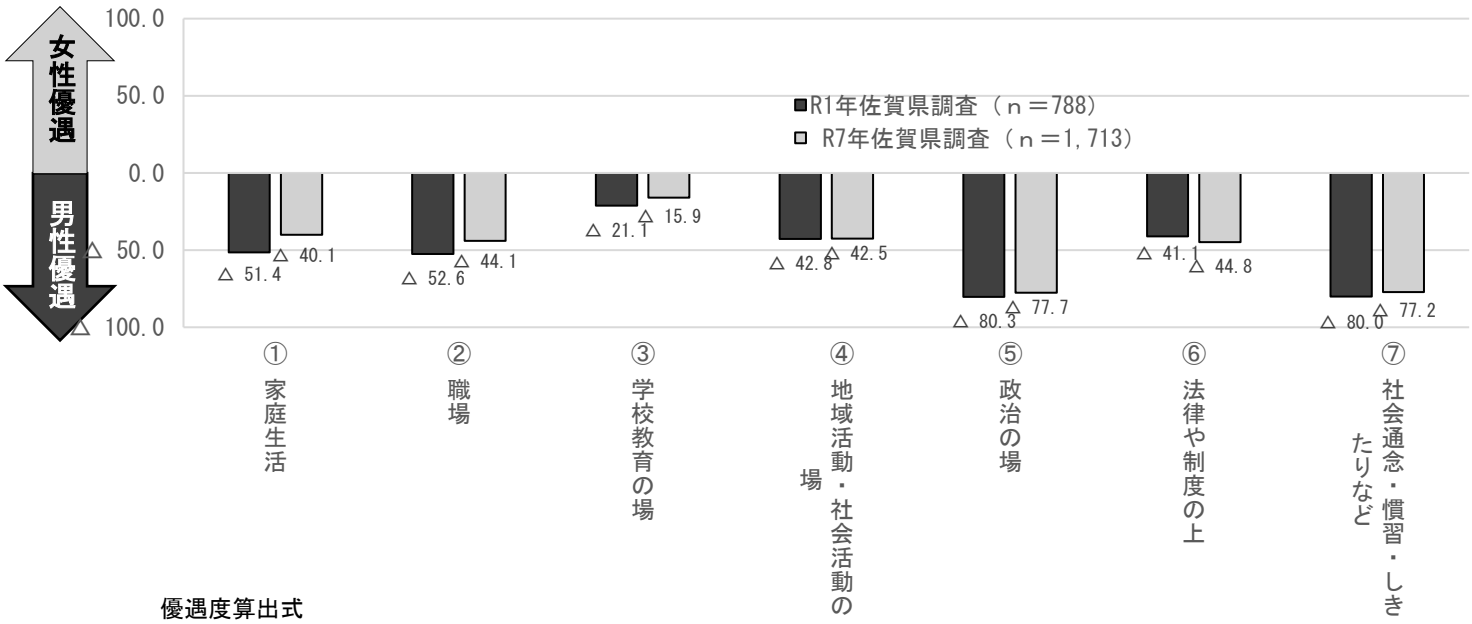
「平等」の回答が最も高くなっている項目は、「③学校教育の場」の 71.1%。
調査した６項目のうち５項目において、５割以上が「男性優遇」と回答。

「平等」の回答が最も高くなっている項目は、「③学校教育の場」の 71.1%のみとなっており、他項目はすべて「男性優遇（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)」となっている。

「男性優遇」が最も高いのは「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」が 74.9%、次いで「⑤政治の場」が 74.8%、「①家庭生活」が 51.3%と続いている。




「男性優遇」と「女性優遇」を比較してみるとすべての項目で「男性優遇」の認識が上回っている。経年比較では「①家庭生活」、「②職場」、「③学校教育の場」、「④地域活動・社会活動の場」、「⑤政治の場」、「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」の項目で「男性優遇」の認識が減少となったが「⑥法律や制度の上」は「男性優遇」の認識が増加となっている。




**優遇度算出式**

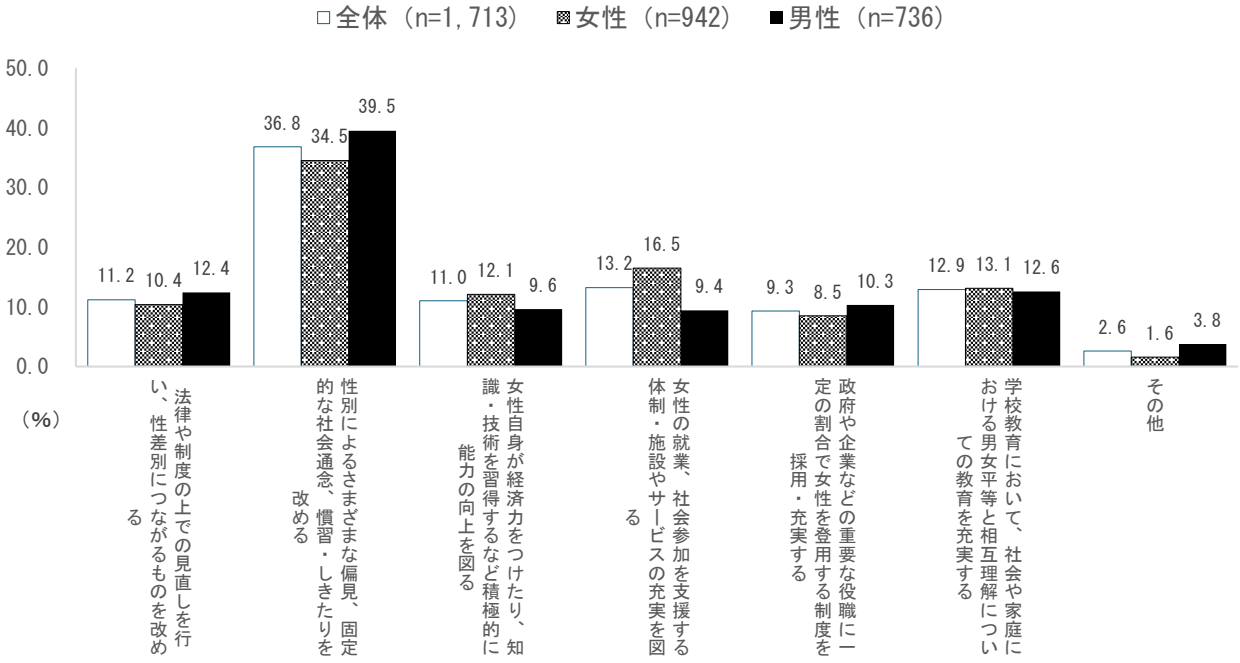
優遇度＝（「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）－（「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が優遇されている」）※R1 年以前は「わからない」の選択肢があるため単純比較はできないため表記していない。

【全員がお答えください】
問２　あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。（○は１つ）

「性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が 36.8%でトップ。

全体では「性別によるさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が 36.8%で最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する体制・施設やサービスの充実を図る」が 13.2%、「学校教育において、社会や家庭における男女平等と相互理解についての教育を充実する」が 12.9%と続いている。

【R7 年佐賀県調査】



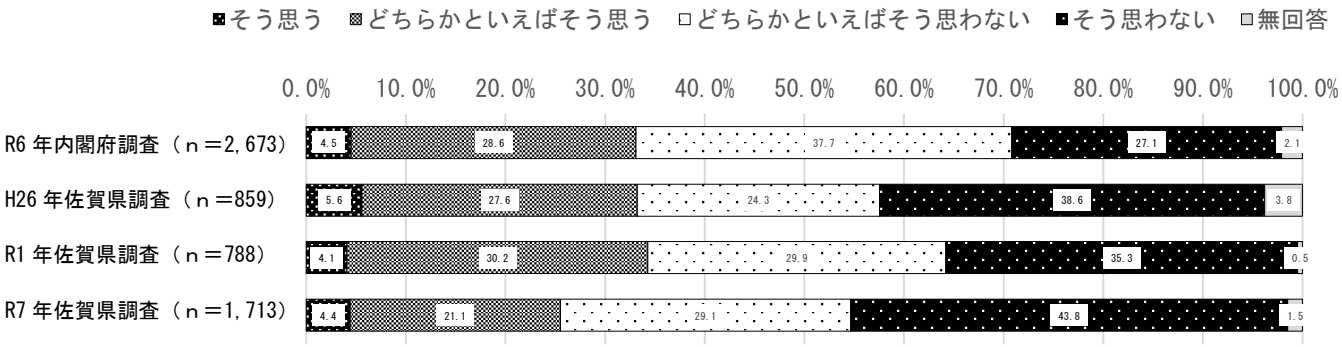

## 【家庭・子育てについて】

【全員がお答えください】
問３　あなたは、一般的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思いますか。
（○は１つ）※ご自身の希望ではなく、考え方の是非についてお答えください。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考えを 72.9%が否定、25.5%が肯定。

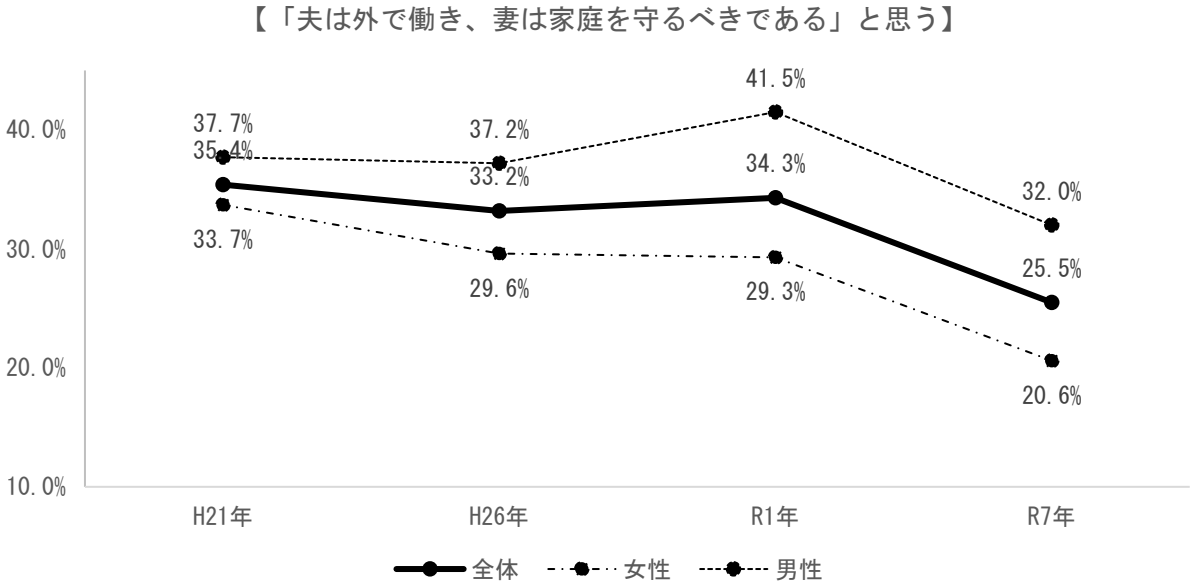
全体では「そう思わない」が 43.8%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が 29.1%、「どちらかといえばそう思う」が 21.1%と続き、「思わない（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）」が 72.9%、「思う（「どちらかといえばそう思う」+「そう思う」）」が 25.5%となっている。

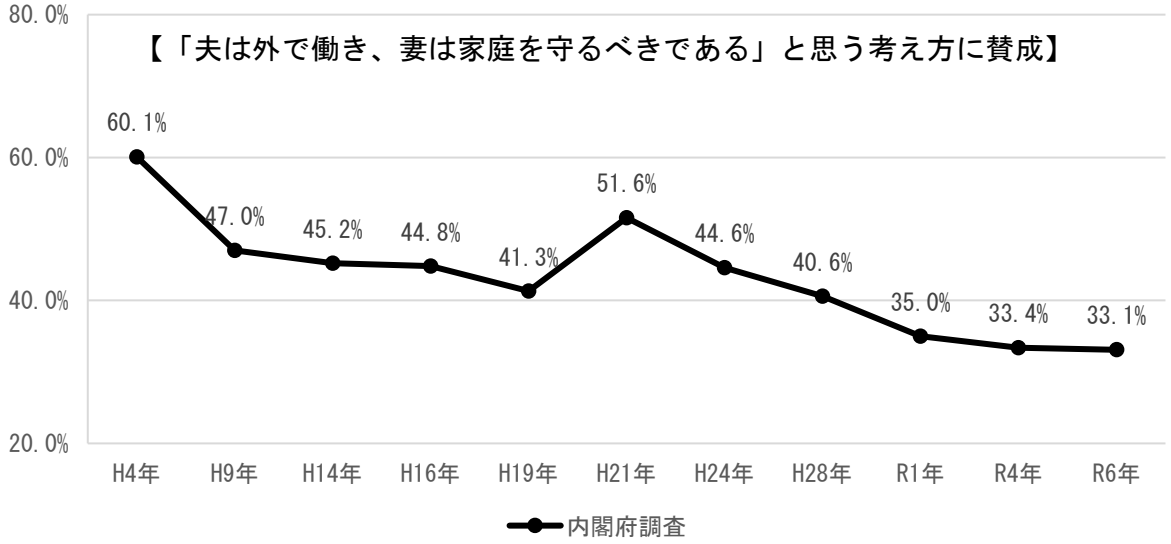
経年比較で「思わない」は R1 年佐賀県調査と比べ 7.7 ポイント増加し、内閣府調査と比べても「思わない」は 8.1 ポイント高くなっている。



経年比較で「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う割合は令和１年調査で増加したものの、今回調査では男女ともに減少している。

一方、内閣府の調査との経年比較では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は全国平均を下回っており、今回調査は令和６年調査と比べ7.6ポイント低くなっている。



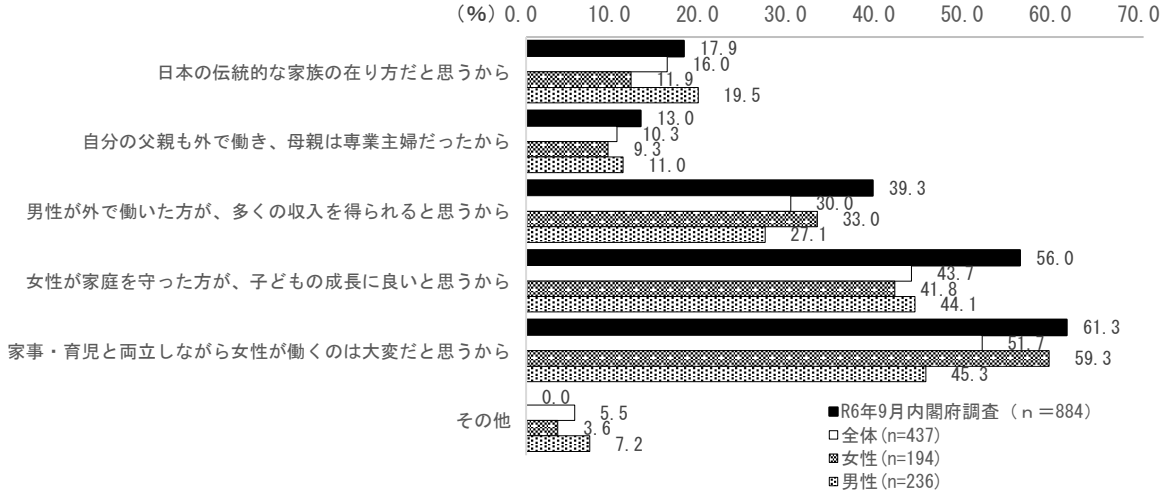
【問３で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方がお答えください。】
問３-1　そう思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」が 51.7%でトップ。

全体では「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」が 51.7%で最も高く、次いで「女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから」が 43.7%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が 30.0%と続いている。

性別でみると、女性は男性よりも１位項目「家事・育児と両立しながら女性が働くのは大変だと思うから」に回答している人が多く、男性は女性よりも２位項目「女性が家庭を守った方が、子どもの成長に良いと思うから」に回答している人が多くなっている。

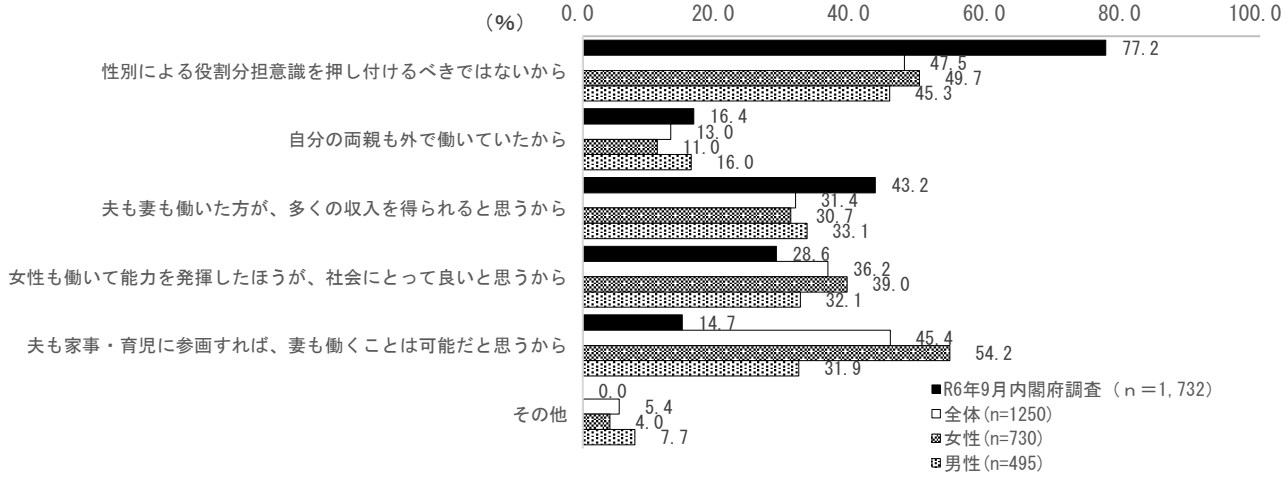
令和１年調査は単回答のため参考として掲載しているが同様の傾向がみられる。




【問３で「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と答えた方がお答えください。】
問３-2　そう思わない理由は何ですか。（○はいくつでも）

「性別による役割分担意識を押し付けるべきではないから」が 47.5%でトップ。

全体では「性別による役割分担意識を押し付けるべきではないから」が 47.5%で最も高く、次いで「夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから」が 45.4%、「女性も働いて能力を発揮したほうが、社会にとって良いと思うから」が 36.2%と続いており、男女間の相違は、女性は「夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから」が１位項目、男性が「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が２位項目となっている。また、他調査との比較では、全体２位項目の「夫も家事・育児に参画すれば、妻も働くことは可能だと思うから」は、内閣府調査では５位項目であり、妻の就労に対する考え方に差がみられる。



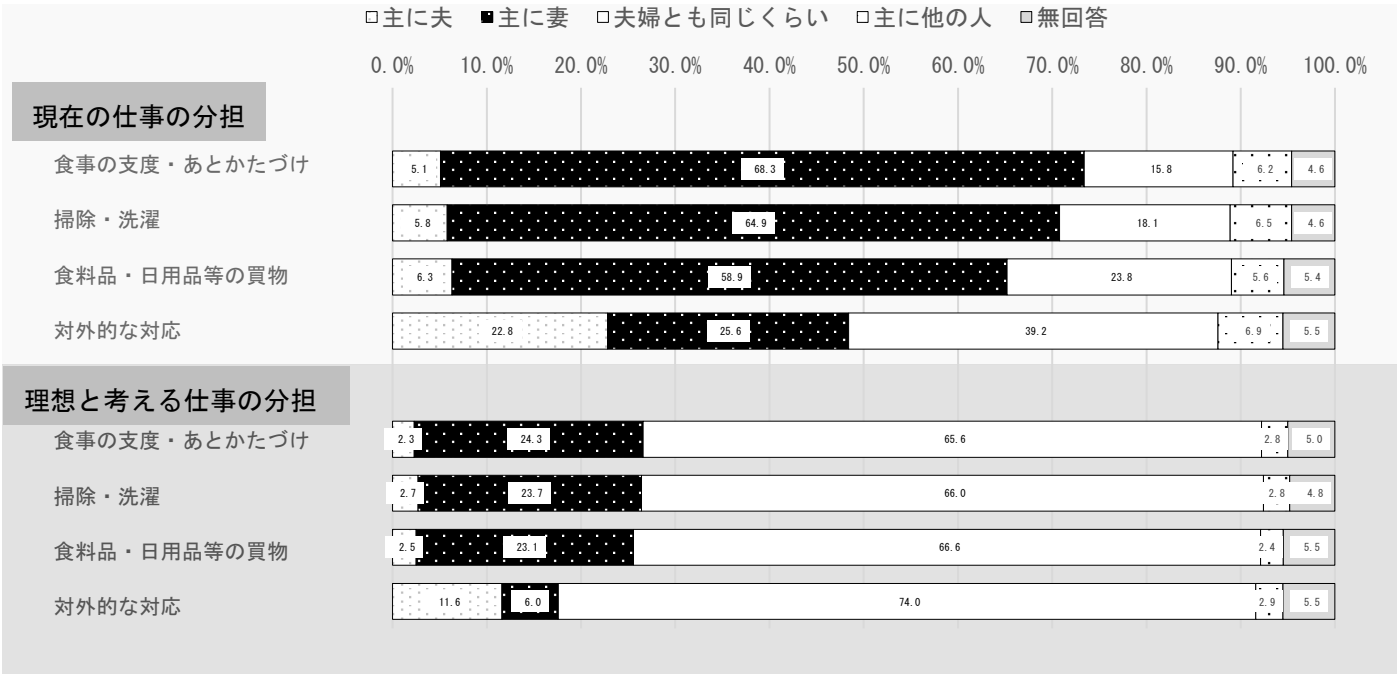
【全員がお答えください】

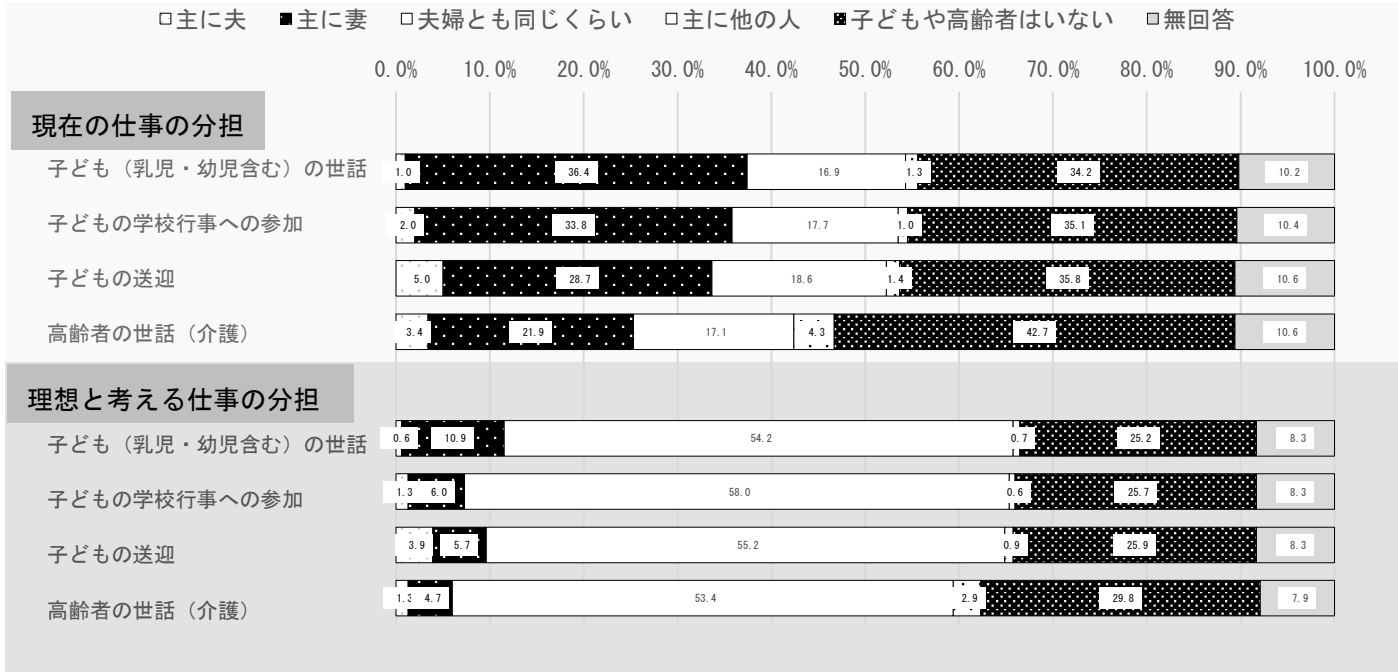
問４　あなたのご家庭では、日常の家事（炊事・掃除・洗濯など）は主にどなたが行っていますか。また、あなたはどのような仕事の分担が理想的だと考えますか。（○はそれぞれ１つ）

理想と考える仕事の分担は「夫婦とも同じくらい」が過半数を超えている。
現実の日常家事は「主に妻」が６割以上負担。理想と現実の乖離は２倍以上。

全ての項目において理想と考える仕事の分担は「夫婦とも同じくらい」が過半数を超えているものの、現在の仕事の分担で食事や掃除等の日常の家事は 6 割以上、子育てに関する項目は 3 割以上を「主に妻」が担っており、「夫婦とも同じくらい」とする理想の仕事の役割分担と現実の仕事の役割分担との乖離は 2 倍以上となっている。

【R7 年佐賀県調査：ｎ＝1,713】



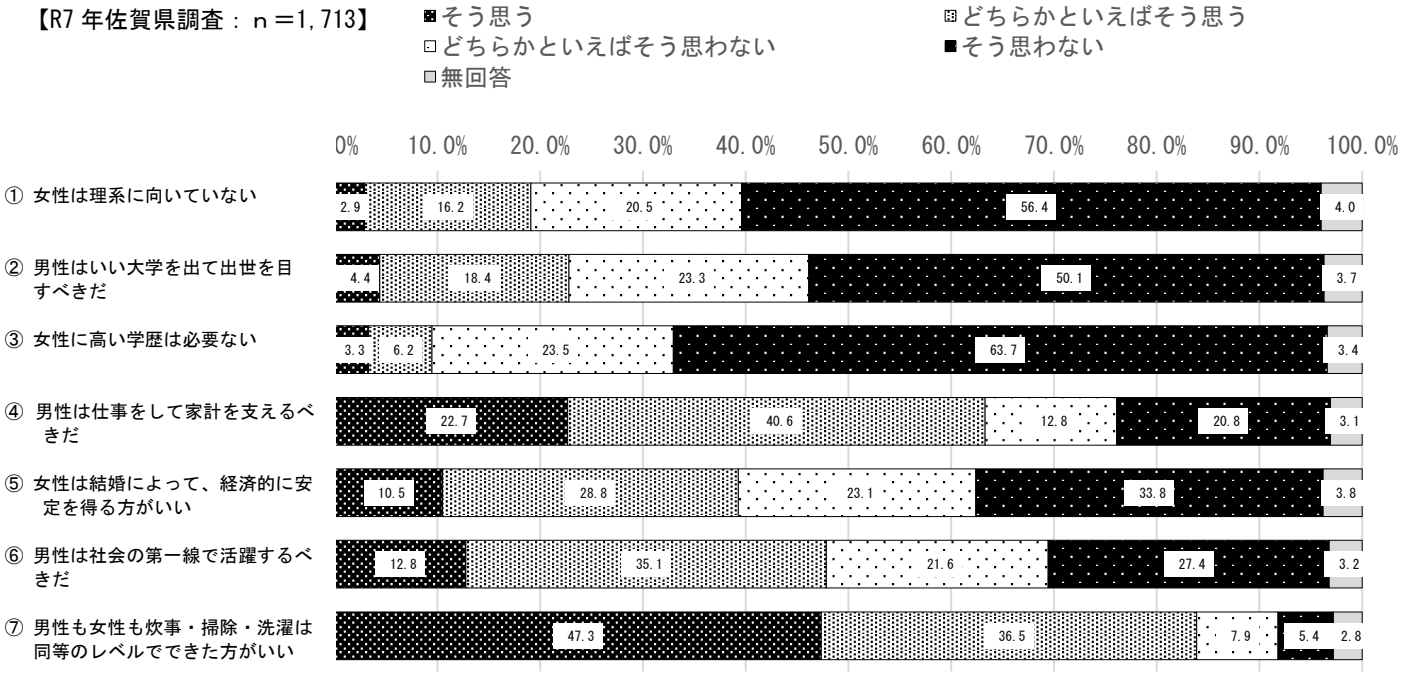
【全員がお答えください】
問５　次の①～⑦について、あなたの考えに近いものは何ですか。（○はそれぞれ１つ）

①～⑥の中では④が最も肯定が多く、③で最も否定が多かった。

男女共同参画の意識をみる設問として「⑦男性も女性も炊事・掃除・洗濯は同等のレベルでできた方がいい」は「思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）」が 83.8%、「思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）」が 13.3%となっている。

その他①～⑥の項目で「思う」最も高いのは「④男性は仕事をして家計を支えるべきだ」で 63.3%、次いで「⑥男性は社会の第一線で活躍するべきだ」が 47.9%、「⑤ 女性は結婚によって、経済的に安定を得る方がいい」が 39.3%と続いており、「思わない」が最も高いのは「③女性に高い学歴は必要ない」で 87.2%、次いで「①女性は理系に向いていない」が 76.9%、「②男性はいい大学を出て出世を目指すべきだ」が 73.4%、「⑤女性は結婚によって、経済的に安定を得る方がいい」が 56.9%と 3 項目全てで過半数以上を占め続いている。

【R7 年佐賀県調査：ｎ＝1,713】



## 【職業について】

【全員がお答えください】

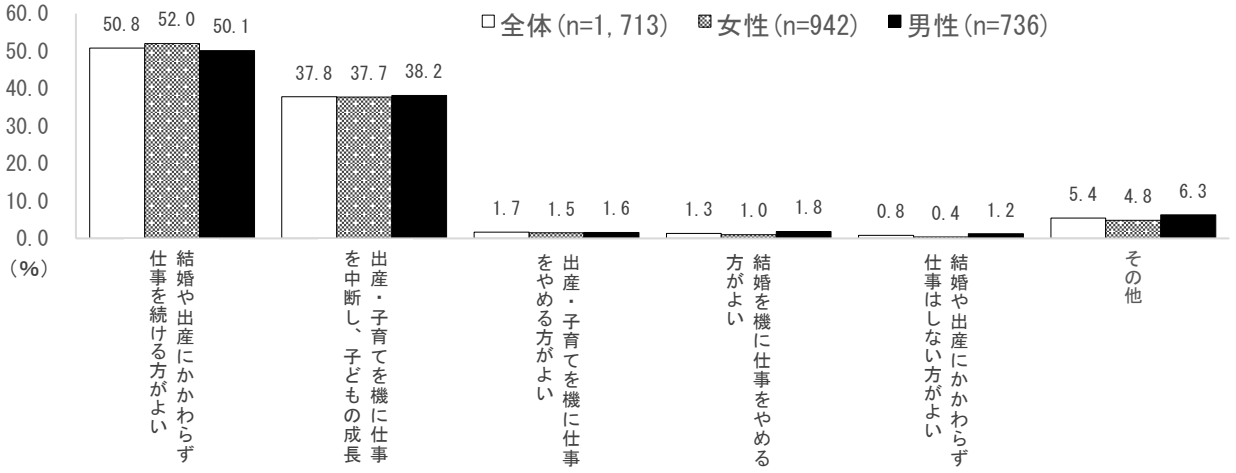
問６　あなたは、女性が働くことについてどう思いますか。（○は１つ）

「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が 50.8%でトップ。

全体で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が 50.8%で最も高く、次いで「出産・子育てを機に仕事を中断し、子どもの成長後再び働く方がよい」が 37.8%、「出産・子育てを機に仕事をやめる方がよい」が 1.7%と続いている。

性別での傾向の相違はみられず、経年比較で「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」は増加の傾向にあり、「出産・子育てを機に仕事を中断し、子どもの成長後再び働く方がよい」は減少の傾向にある。

【R7 年佐賀県調査】



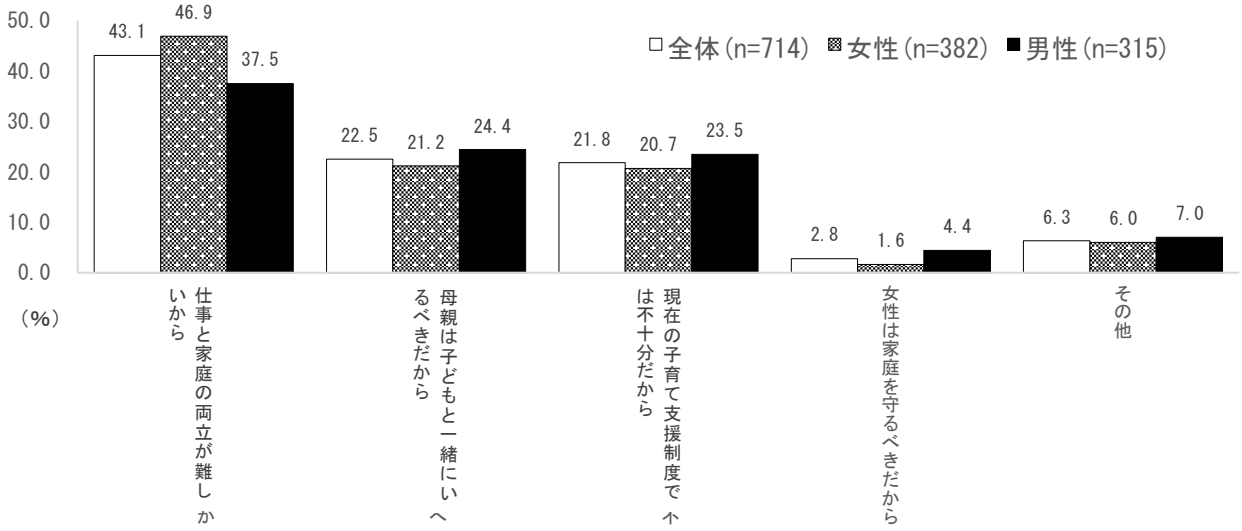

【問６で２～５のいずれかを選んだ方がお答えください】

問６-１　選んだ理由は何ですか。（○は１つ）

「仕事と家庭の両立が難しいから」が 43.1%でトップ。

全体で「仕事と家庭の両立が難しいから」が 43.1%で最も高く、次いで「母親は子どもと一緒にいるべきだから」が 22.5%、「現在の子育て支援制度では不十分だから」が 21.8%と続いている。

性別での上位項目の傾向の相違はみられない。



【全員がお答えください】

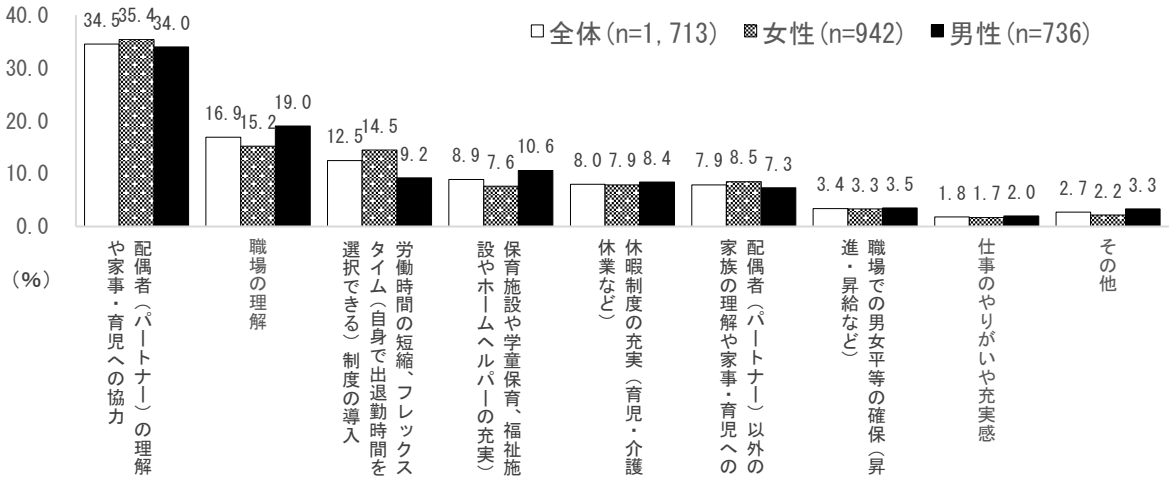
問７　あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○は１つ）

「配偶者（パートナー）の理解や家事・育児への協力」が 34.5%でトップ。

全体で「配偶者（パートナー）の理解や家事・育児への協力」が 34.5%で最も高く、次いで「職場の理解」が 16.9%、「労働時間の短縮、フレックスタイム（自身で出退勤時間を選択できる）制度の導入」が 12.5%と続いている。

上位 3 項目の性別での傾向の相違は女性ではみられないものの、男性は「保育施設や学童保育、福祉施設やホームヘルパーの充実」が 3 位項目になっている。

**【R7 年佐賀県調査】**




【全員がお答えください】

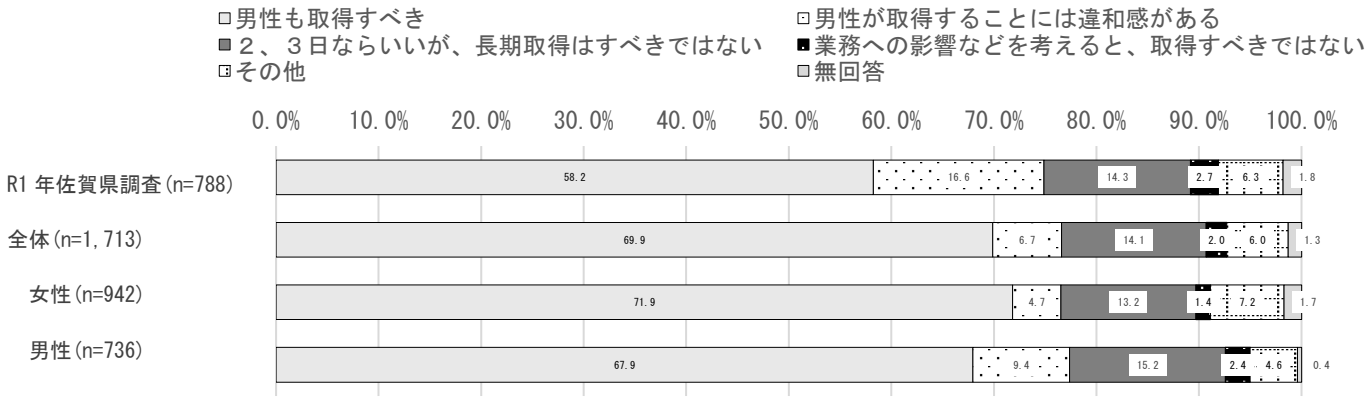
問８　職場の男性が育児休業を取得するとしたら、あなたはどう思いますか。（○は１つ）

「男性の育児休業所得」を 69.9%が肯定。

全体では「男性も取得すべき」が 69.9%で最も高く、次いで「2、3 日ならいいが、長期取得はすべきではない」が 14.1%、「男性が取得することには違和感がある」が 6.7%と続いている。

性別での傾向の相違はみられず「男性も取得すべき」は女性が 4.0 ポイント高くなっている。性別・年齢別での傾向の相違はみられないが、男女ともに年代の上昇とともに「男性も取得すべき」は減少の傾向がみられる。

経年比較で「男性も取得すべき」は 11.7 ポイント増加しているものの男性の育児休業取得に否定的な意見（「男性が取得することには違和感がある（令和 1 年調査時文言：女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある)」＋「2、3 日ならいいが、長期取得はすべきではない」＋「業務への影響などを考えると、取得すべきではない」）は 10.8 ポイント減少している。



【全員がお答えください】

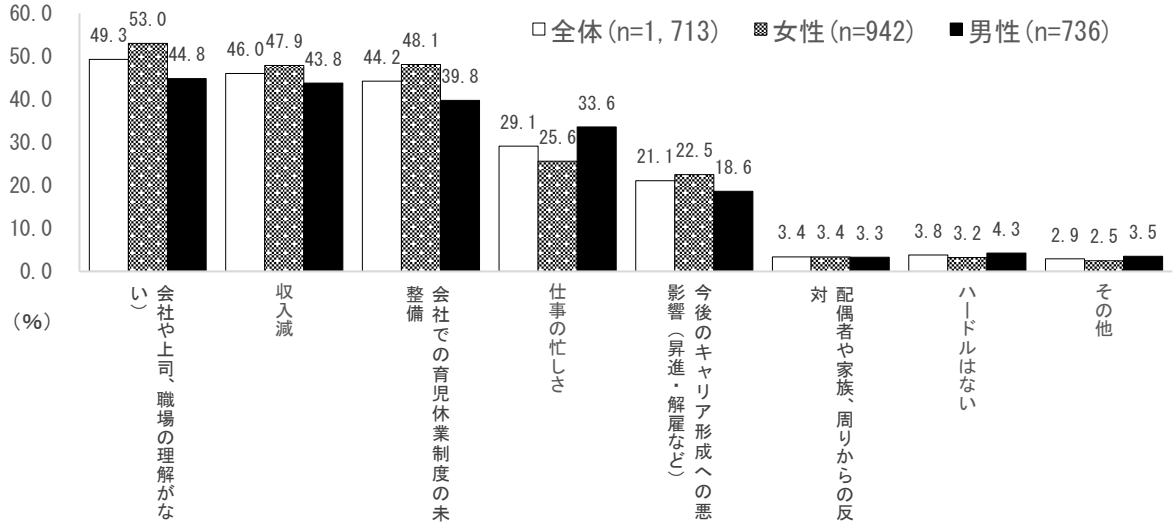
問９　男性が育休を取得する上で、何がハードルになると思いますか。（○はいくつでも）

**男性が育児休業取得のハードルは「会社や上司、職場の理解がない」が 49.3%でトップ。**

全体では「会社や上司、職場の理解がない」が 49.3%で最も高く、次いで「収入減」が 46.0%、「会社での育児休業制度の未整備」が 44.2%と続いている。

性別での傾向の相違はみられず「会社や上司、職場の理解がない」は女性が 8.2 ポイント高くなっている。

【R7 年佐賀県調査】




【現在働いている方がお答えください】

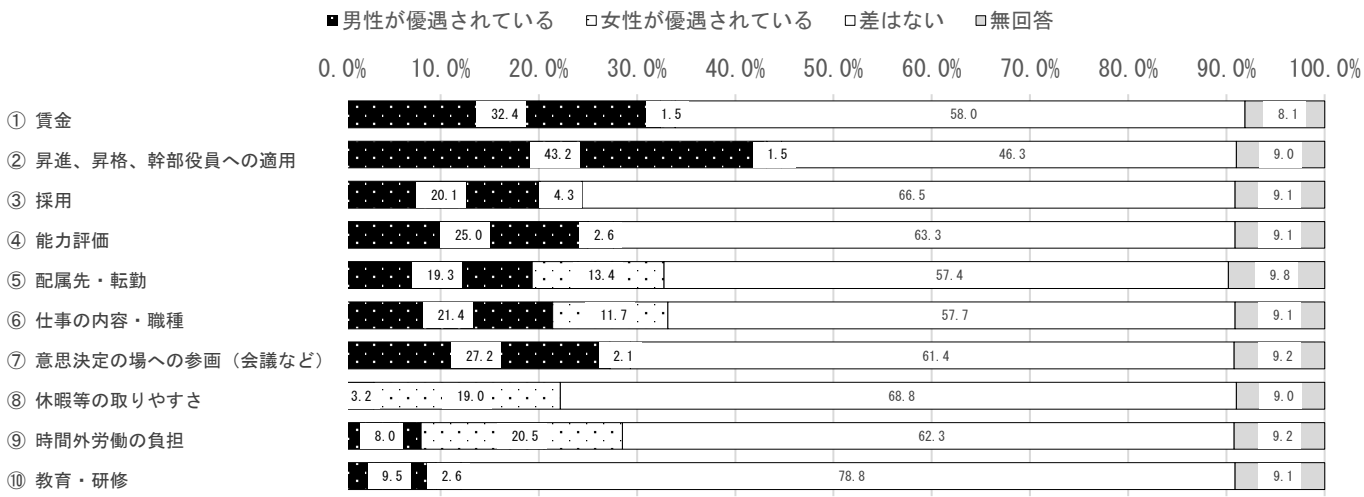
問１０　あなたの今の職場では、①～⑩について男性・女性どちらの方が優遇されていると思いますか。（○はそれぞれ１つ）

**全ての項目で「差はない」が最も高い。「差はない」で「⑩教育・研修」が 78.8%でトップ。**

全ての項目で「差はない」が最も高くなっている。そのうち「⑩教育・研修」が 78.8%で最も高く、次いで「⑧休暇等の取りやすさ」が 68.8%、「③採用」が 66.5%と続いており、「男性が優遇されている」が最も高いのは、「②昇進、昇格、幹部役員への適用」の 43.2%、次いで「① 賃金」が 32.4%、「⑦意思決定の場への参画（会議など）」が 27.2%と続いている。

また、「女性が優遇されている」が最も高いのは、「⑨ 時間外労働の負担」の 20.5%、次いで「⑧休暇等の取りやすさ」が 19.0%、「⑤ 配属先・転勤」が 13.4%と続いている。

【R7 年佐賀県調査：ｎ＝1,050】

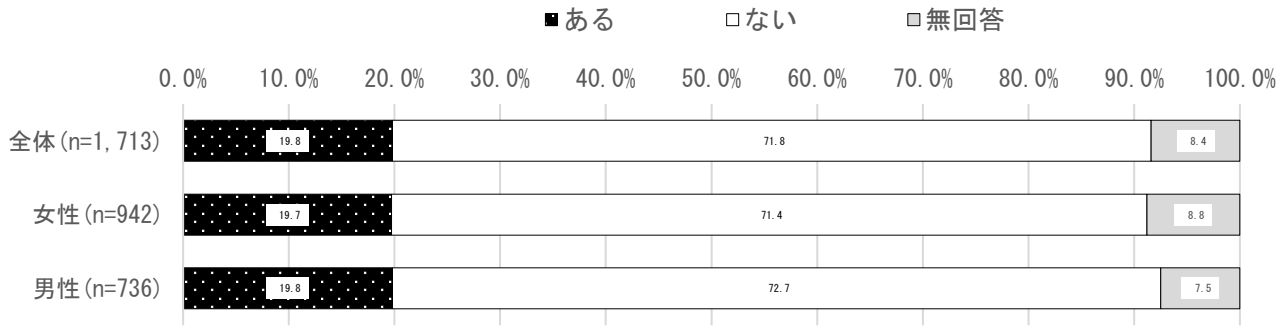


【全員がお答えください】

問１１　あなたは、過去５年間の間に、職場においてセクシュアルハラスメントやパワーハラスメント等のハラスメントにあったことがありますか。

**ハラスメントの経験は「ある」が 19.8%、「ない」が 71.8%。**

全体で「ある」が 19.8%、「ない」が 71.8%となっている。性別での傾向の相違はみられず、「ある」で男性が 0.1 ポイント高く、「ない」も男性が 1.3 ポイント高くなっている。



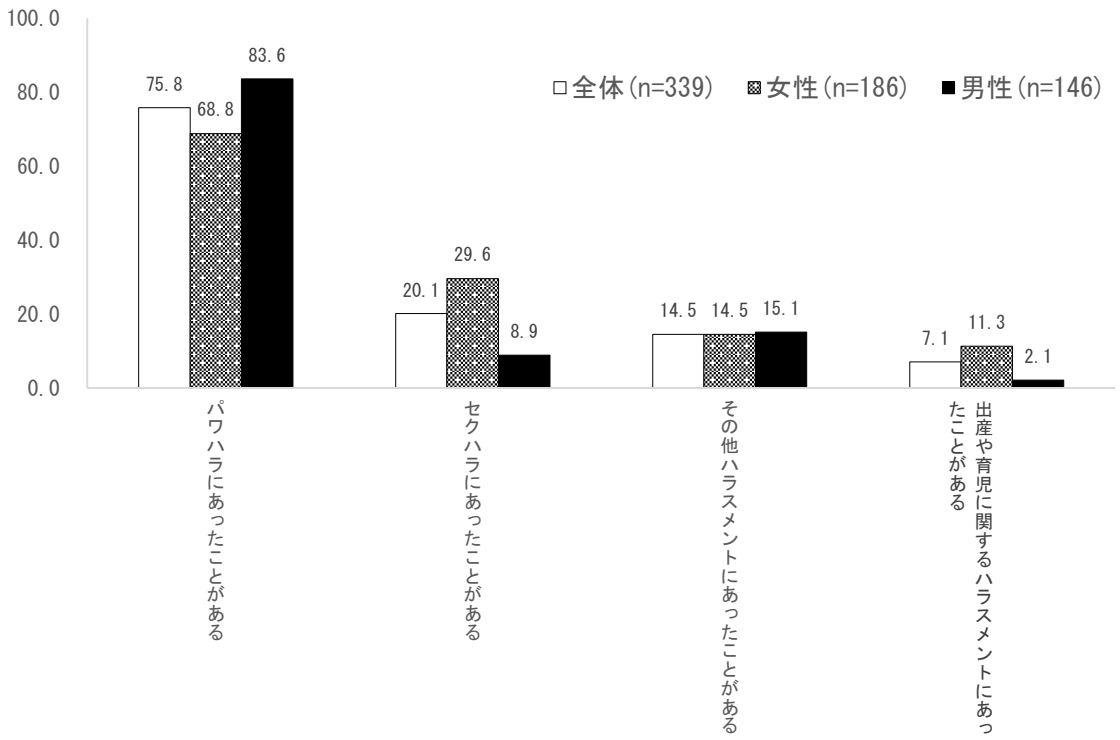

※「ある」と回答した方は、①～④からあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

**ハラスメント経験者の 75.8%が「パワハラ」、20.1%が「セクハラ」。**

全体では「パワハラにあったことがある」が 75.8%で最も高く、次いで「セクハラにあったことがある」が 20.1%、「その他ハラスメントにあったことがある」が 14.5%、「出産や育児に関するハラスメントにあったことがある」が 7.1%の順となっている。

性別で見ると女性に傾向の相違はみられないが、男性は「セクハラにあったことがある」、「その他ハラスメントにあったことがある」の順位が入れ替わっている。

【R7 年佐賀県調査】

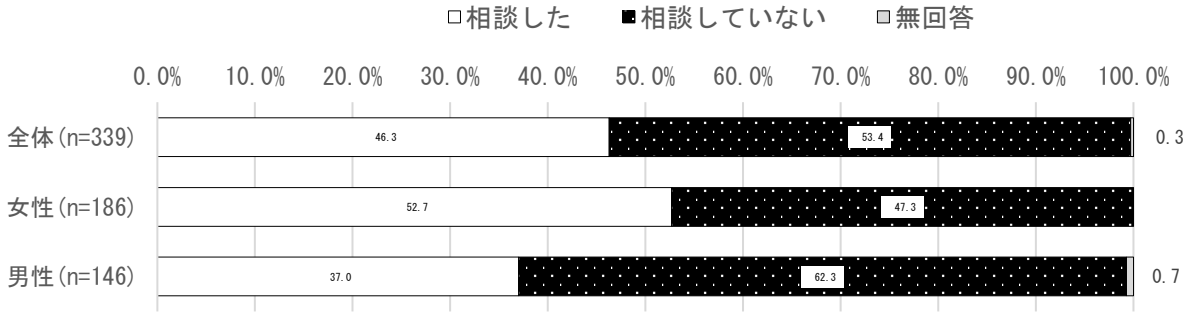


【ハラスメントにあったことがある方（問 11 で①～④を選んだ方）がお答えください】

問１１-１　あなたは職場において、ハラスメントにあった際にどこかに相談したり、被害を訴えたりしましたか。

**ハラスメントの経験者の 46.3%が「相談した」、53.4%が「相談していない」。**

全体では「相談した」が 46.3%、「相談していない」が 53.4%となっており、性別での傾向の相違は女性で「相談した」が「相談していない」を 5.4 ポイント上回っている。




※「相談した」と回答した方は、①～⑥から相談先をすべて選んで○をつけてください。

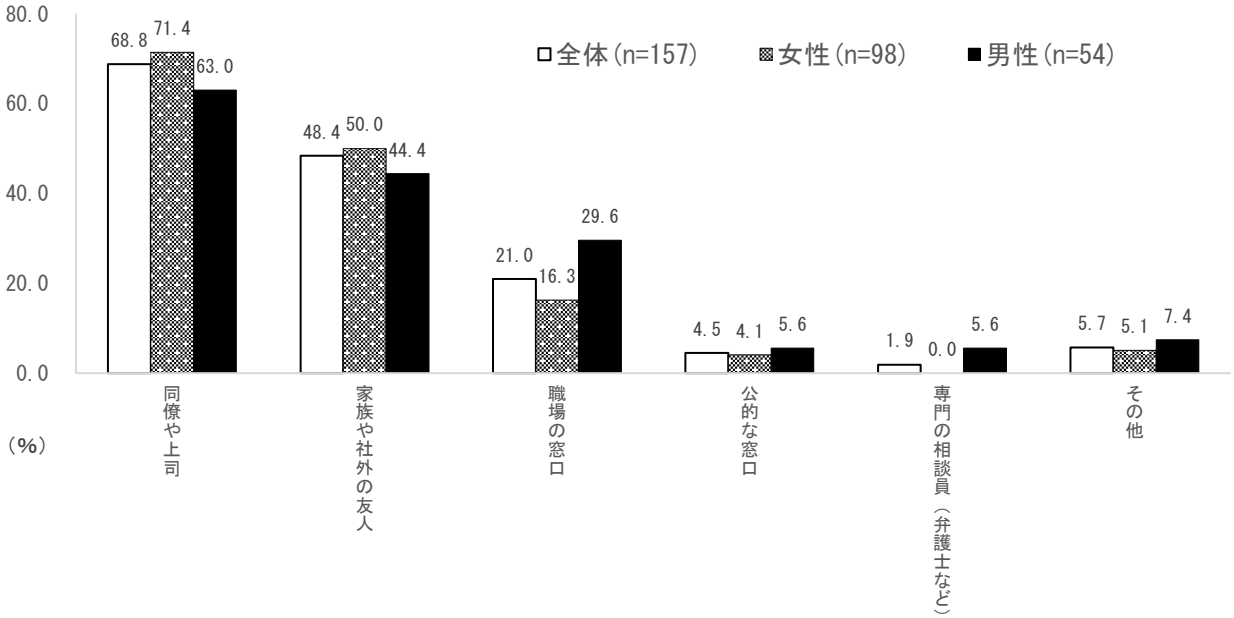
**相談先は「同僚や上司」が 68.8%でトップ。**

全体では「同僚や上司」が 68.8%で最も高く、次いで「家族や社外の友人」が 48.4%、「職場の窓口」が 21.0%と続いている。

経年比較では選択肢が相違するため単純比較はできないものの、1 位が「同僚や上司」、2 位が「家族や社外の友人」と変化はみられない。

※性別・年齢別は母数が小さくなりすぎるため掲載していない。

**【R7 年佐賀県調査】**



## 【社会について】

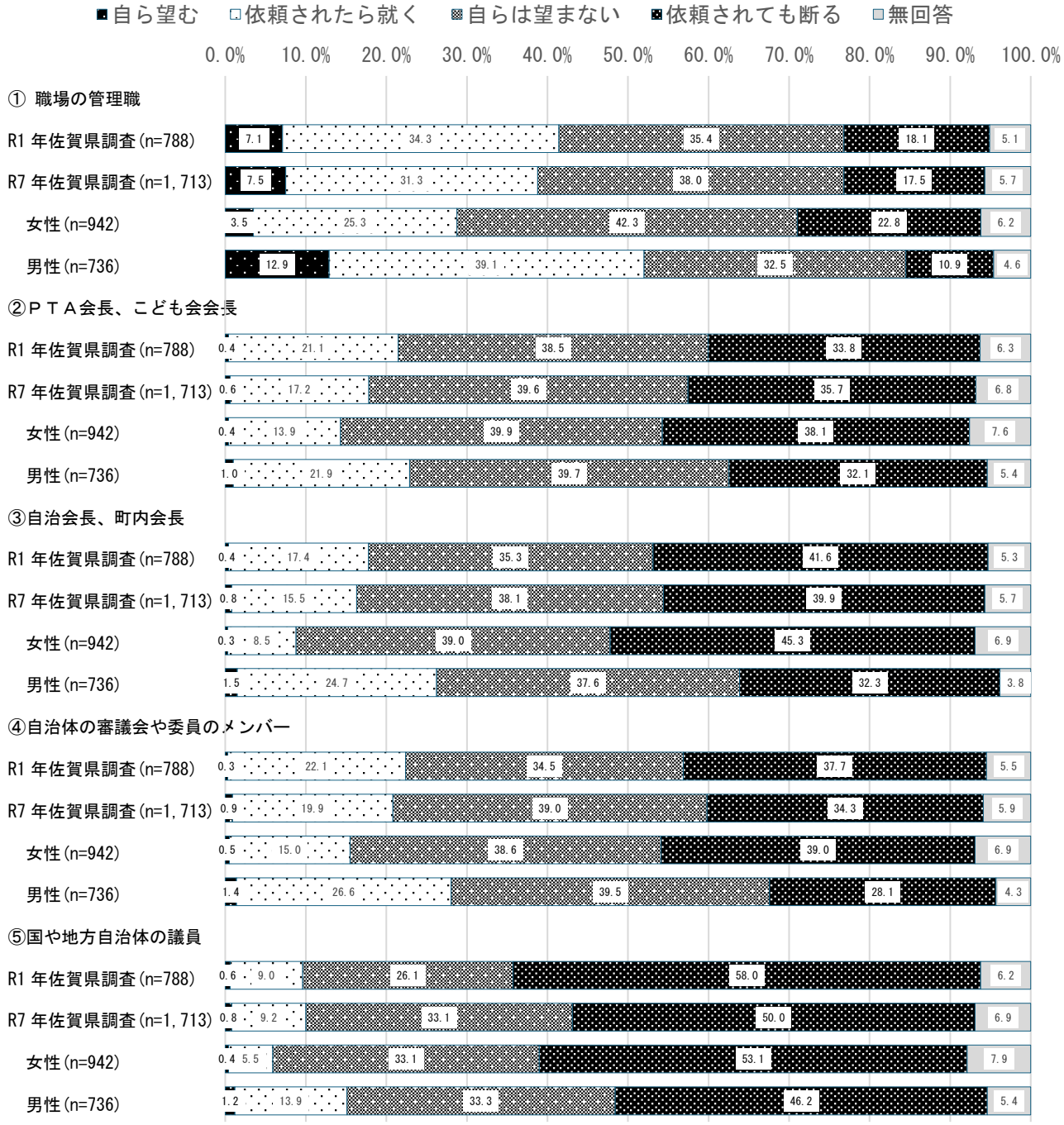
【全員がお答えください】

問１２　あなたは、自分自身が管理職等への登用や企画・方針決定の場に参画することを望みますか。（○は１～４の中からそれぞれ１つ）

**自分自身が「望む」管理職等は「①職場の管理職」が 38.8%でトップ。**

全体で「望む（「自ら望む」＋「依頼されたら就く」）」と「望まない（「自らは望まない」＋「依頼されても断る」）」を見ると、「①職場の管理職」は「望む」が 38.8%、「望まない」が 55.5%、「②ＰＴＡ会長、こども会会長」は「望む」が 17.8%、「望まない」が 75.3%、「③自治会長、町内会長」は「望む」が 16.3%、「望まない」が 78.0%、「④自治体の審議会や委員のメンバー」は「望む」が 20.8%、「望まない」が 73.3%、「⑤国や地方自治体の議員」は「望む」が 10.0%、「望まない」が 83.1%となっている。

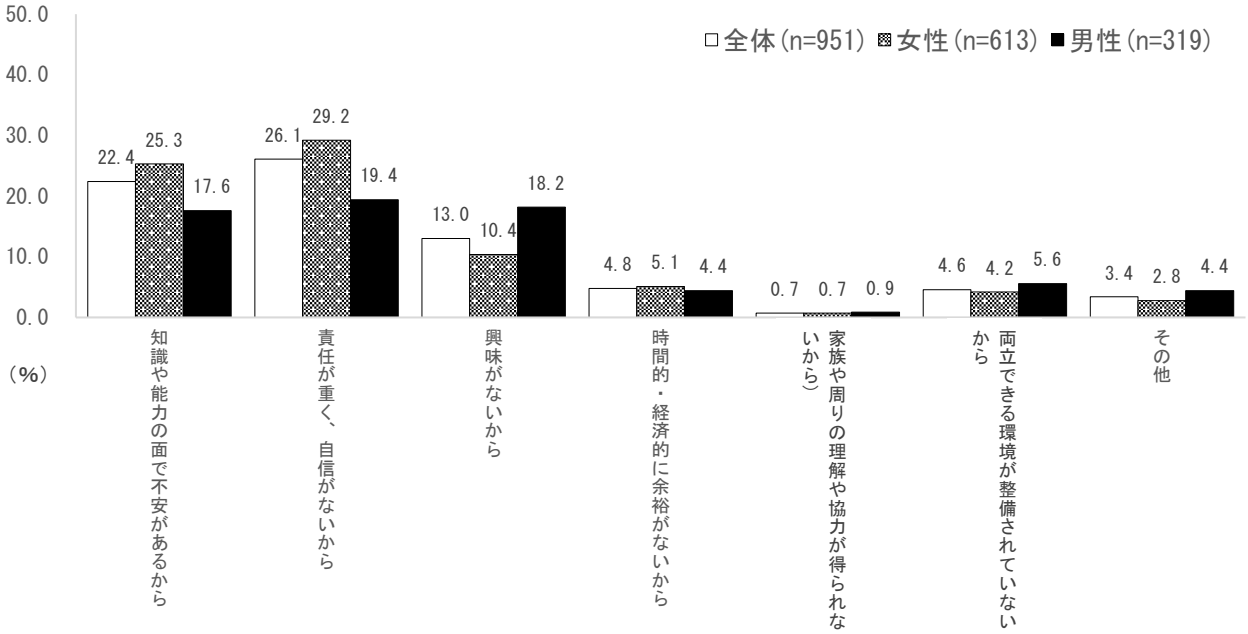
経年比較で「望む」が増加したのは「⑤国や地方自治体の議員」の 0.4 ポイント増加のみで他項目は全て減少となっている。



## 問１２　①職場の管理職
【自らは望まない、依頼されても断る理由】

自らは望まない、依頼されても断る理由は「責任が重く、自信がないから」が 26.1%で最も高く、次いで「知識や能力の面で不安があるから」が 22.4%、「興味がないから」が 13.0%と続いており、性別での相違は、男性は「知識や能力の面で不安があるから」と「興味がないから」の順位が入れ替わっている。

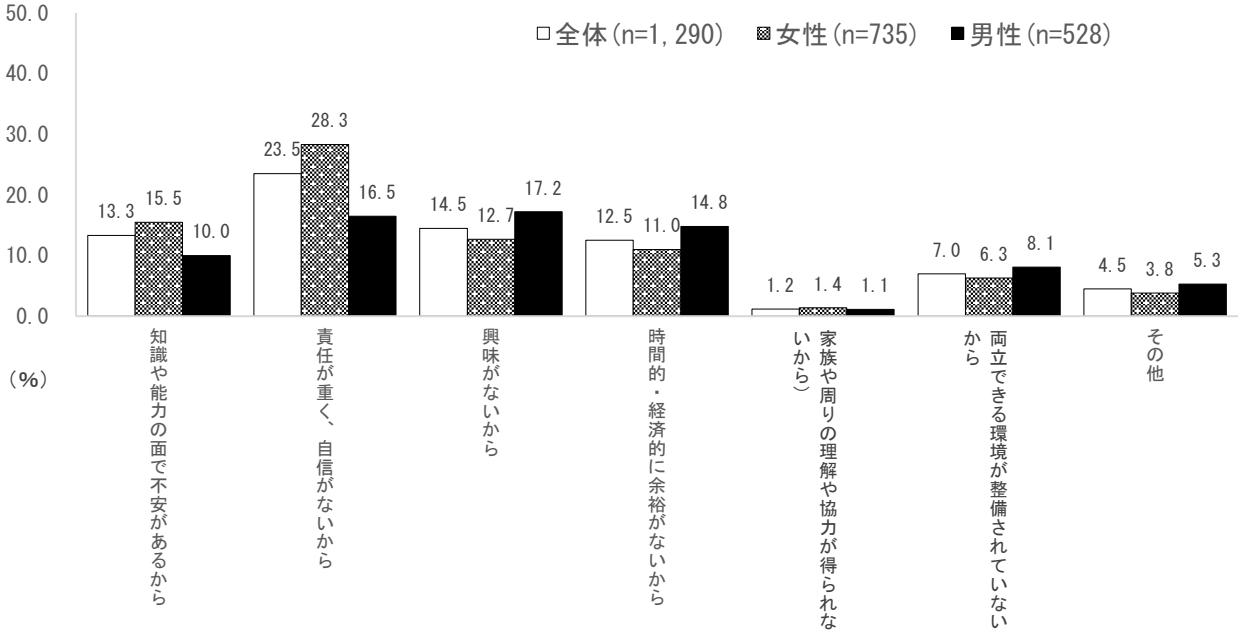
【R7 年佐賀県調査】




## 問１２　②ＰＴＡ会長、こども会会長
【自らは望まない、依頼されても断る理由】

自らは望まない、依頼されても断る理由は「責任が重く、自信がないから」が 23.5%で最も高く、次いで「興味がないから」が 14.5%、「知識や能力の面で不安があるから」が 13.3%と続いており、性別での相違は、女性は「興味がないから」と「知識や能力の面で不安があるから」の順位が入れ替わり、男性は「興味がないから」が 1 位項目、「責任が重く、自信がないから」が 2 位項目、「時間的・経済的に余裕がないから」が 3 位項目と順位が入れ替わっている。

【R7 年佐賀県調査】

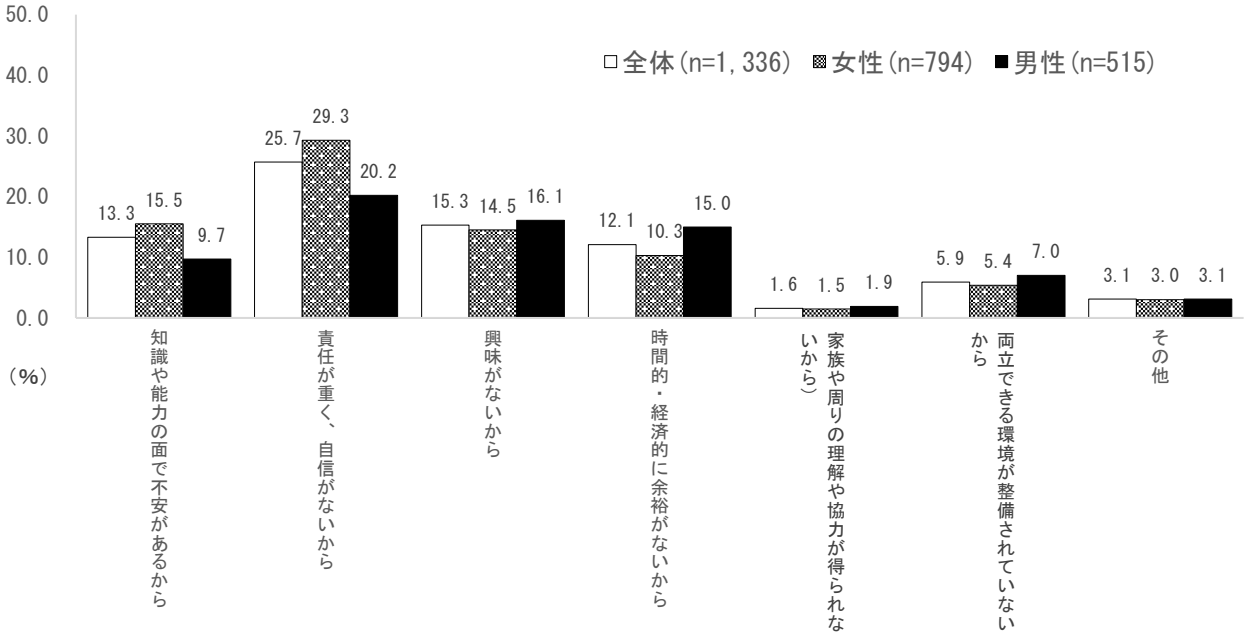


問１２　③自治会長、町内会長

【自らは望まない、依頼されても断る理由】

自らは望まない、依頼されても断る理由は「責任が重く、自信がないから」が 25.7%で最も高く、次いで「興味がないから」が 15.3%、「知識や能力の面で不安があるから」が 13.3%と続いており、性別での相違は、女性は「興味がないから」と「知識や能力の面で不安があるから」の順位が入れ替わり、男性は「時間的・経済的に余裕がないから」と「知識や能力の面で不安があるから」が 3 位項目の順位が入れ替わっている。

【R7 年佐賀県調査】

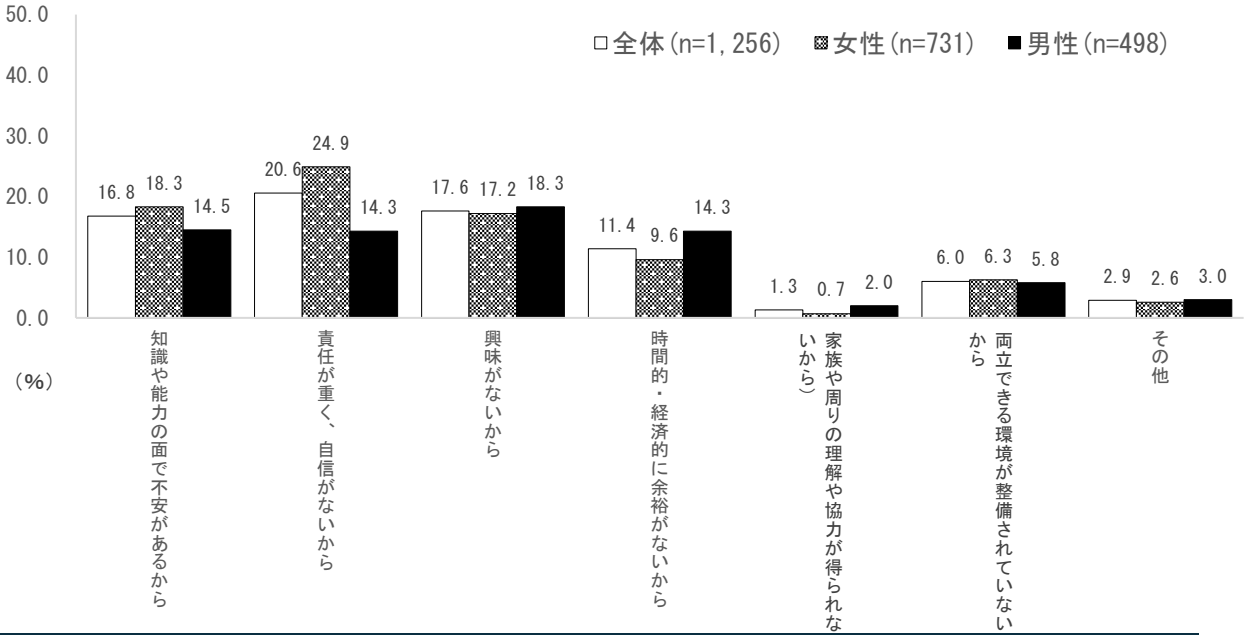



問１２　④自治体の審議会や委員のメンバー

【自らは望まない、依頼されても断る理由】

自らは望まない、依頼されても断る理由は「責任が重く、自信がないから」が 20.6%で最も高く、次いで「興味がないから」が 17.6%、「知識や能力の面で不安があるから」が 16.8%と続いており、性別での相違は、女性は「興味がないから」と「知識や能力の面で不安があるから」の順位が入れ替わり、男性は「興味がないから」が 1 位項目、「知識や能力の面で不安があるから」が 2 位項目、「責任が重く、自信がないから」と「時間的・経済的に余裕がないから」が 3 位項目に並んで入っている。

【R7 年佐賀県調査】

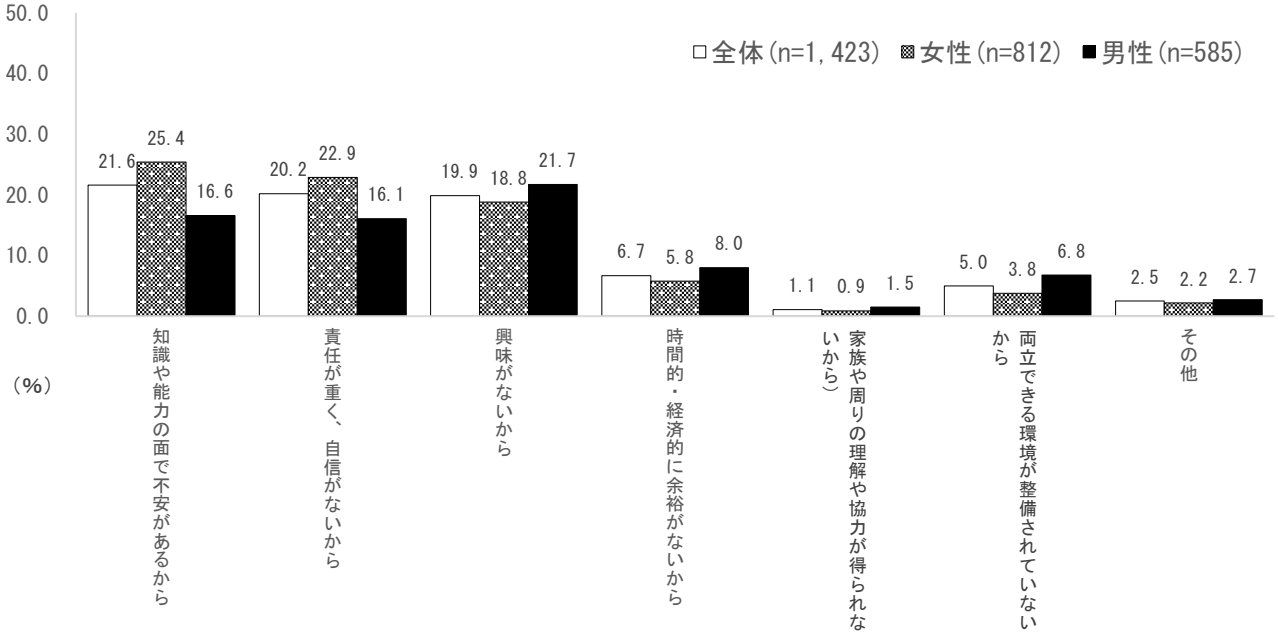


問１２　⑤国や地方自治体の議員

【自らは望まない、依頼されても断る理由】

自らは望まない、依頼されても断る理由は「知識や能力の面で不安があるから」が 21.6%で最も高く、次いで「責任が重く、自信がないから」が 20.2%、「興味がないから」が 19.9%と続いており、性別での相違は、女性は傾向の相違はみられず、男性は「興味がないから」が 1 位項目、「知識や能力の面で不安があるから」が 2 位項目、「責任が重く、自信がないから」が 3 位項目となっている。

【R7 年佐賀県調査】



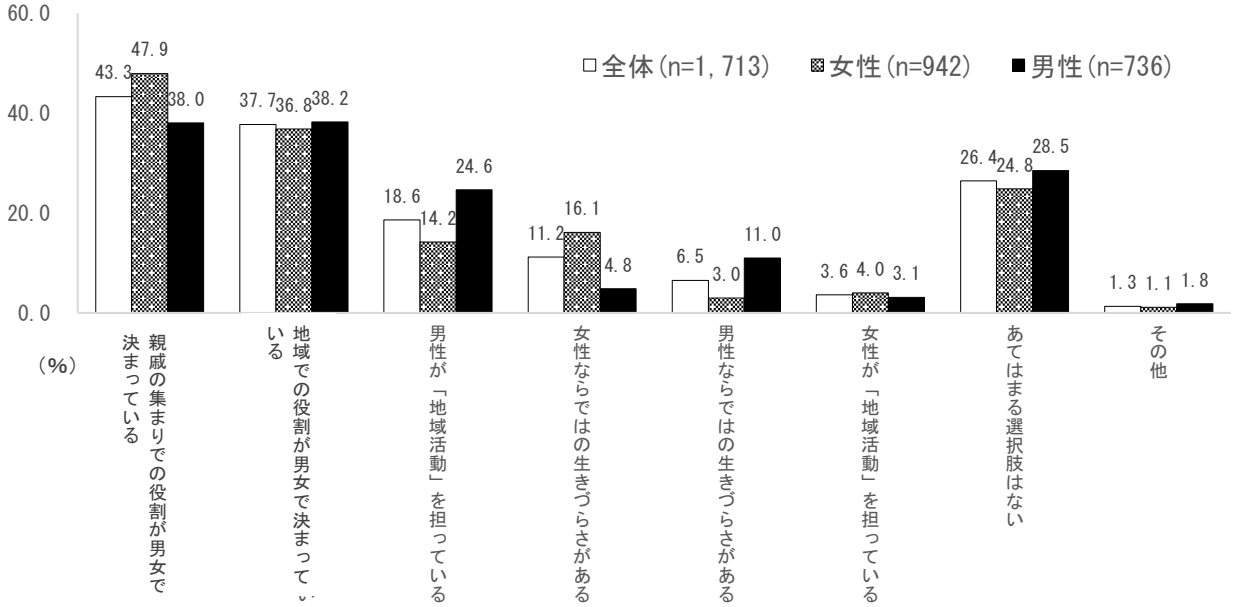

【全員がお答えください】

問１３　地域や社会生活で「男女差」を感じたことのある場面は次のうちどれですか。
（○はいくつでも）

「親戚の集まりでの役割が男女で決まっている」が 43.3%でトップ。

全体で「親戚の集まりでの役割が男女で決まっている」が 43.3%で最も高く、次いで「地域での役割が男女で決まっている」が 37.7%、「男性が「地域活動」を担っている」が 18.6%続いている。一方で「あてはまる選択肢はない」が 26.4%となっている。

性別での傾向の大きな相違はみられない。



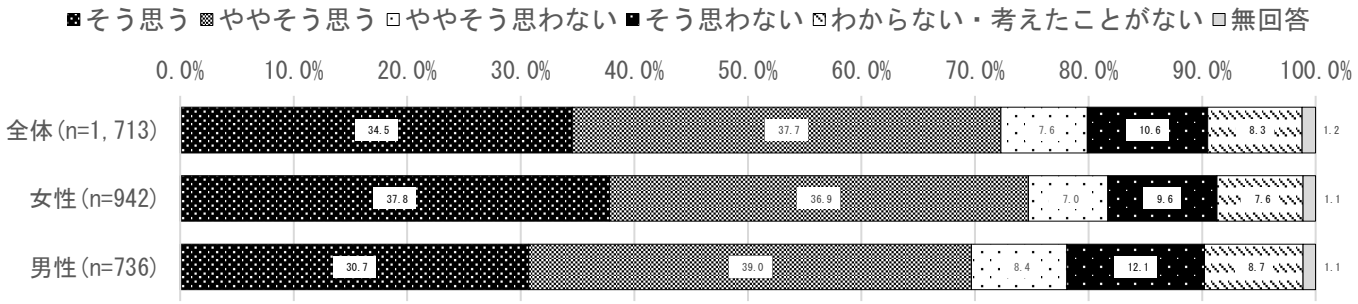
【全員がお答えください】

問１４　あなたは「男性だから、女性だからこうあるべき」という固定的な意識をなくす必要があると思いますか。（○は１つ）

固定的な意識をなくす必要が「あると思う」が 72.2%、「あると思わない」が 18.2%

全体で「ややそう思う」が 37.7%で最も高く、次いで「そう思う」が 34.5%、「そう思わない」が 10.6%と続いており、「あると思う（「そう思う」＋「ややそう思う」）」が 72.2%、「あると思わない（「そう思わない」＋「ややそう思わない」）」が 18.2%となっている。

性別での相違は、女性は「そう思う」と「ややそう思う」との順位が入れ替わり「思う」は男性よりも 5.0 ポイント高くなっている。



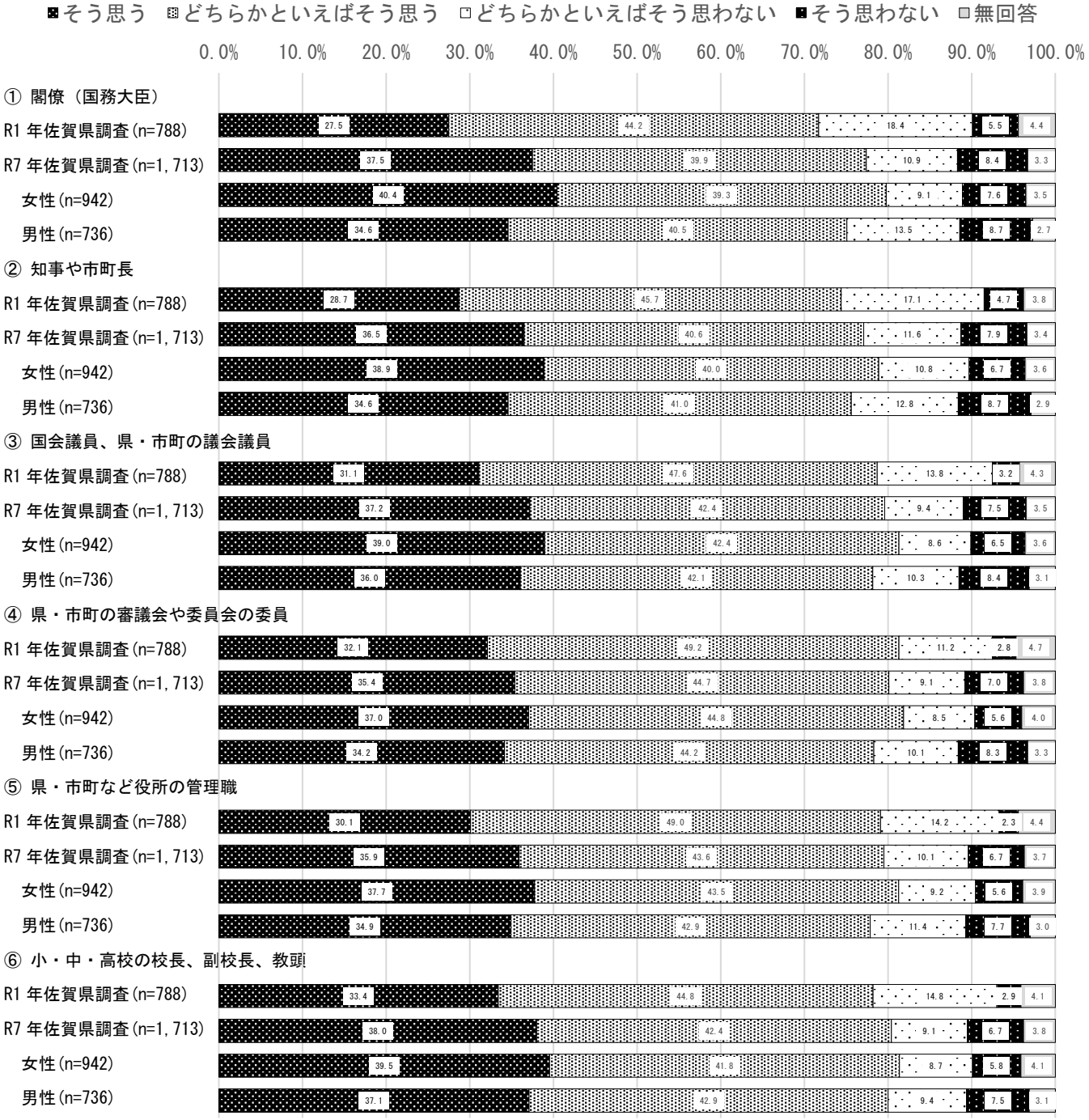
【全員がお答えください】

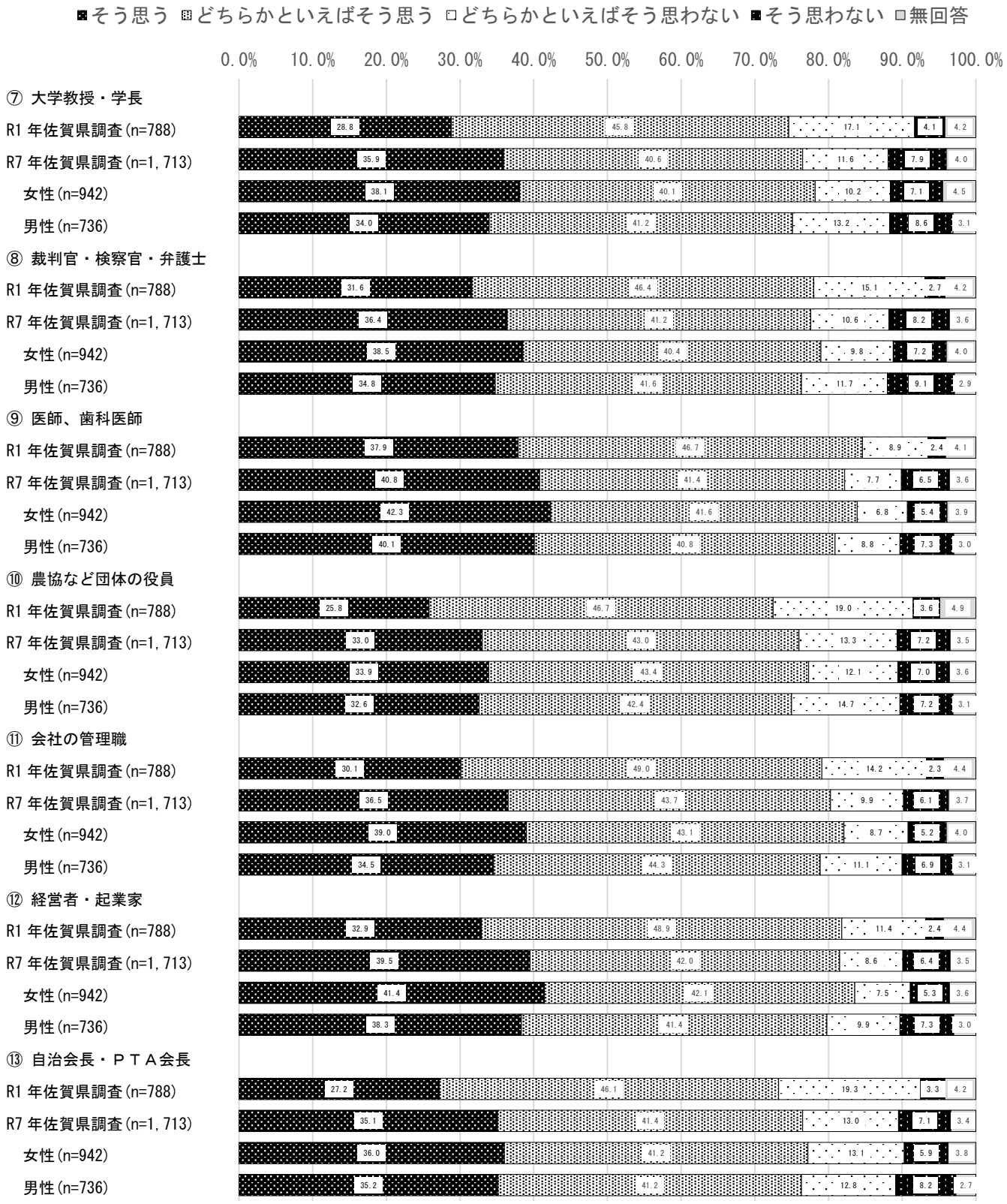
問１５　あなたは、次の①～⑬の役職について、今後女性が増えたほうがいいと思いますか。
（○はそれぞれ１つ）

**今後女性が増えたほうがいい役職は「⑨医師、歯科医師」が82.2%でトップ。**

全体でみると全項目で「思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）」が「思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）」を大きく上回っており、「思う」が最も高かったのは「⑨医師、歯科医師」の 82.2%、次いで「⑫経営者・起業家」が 81.5%、「⑥小・中・高校の校長、副校長、教頭」が 80.4%、「⑪会社の管理職」が 80.2%、「④県・市町の審議会や委員会の委員」が 80.1%と８割を超えている。

経年比較で「思う」が減少したのは、「⑨医師、歯科医師」が▲2.4 ポイント、「④県・市町の審議会や委員会の委員」が▲1.2 ポイント、「⑧裁判官・検察官・弁護士」が▲0.4 ポイント、「⑫経営者・起業家」が▲0.3 ポイントとなり、増加が最も高いのは「①閣僚（国務大臣）」の 5.7 ポイントとなっている。




そう思う
どちらかといえばそう思う
どちらかといえばそう思わない
そう思わない
無回答
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%
⑦ 大学教授・学長
R1 年佐賀県調査(n=788) 28.8 45.8 17.1 4.1 4.2
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 35.9 40.6 11.6 7.9 4.0
女性(n=942) 38.1 40.1 10.2 7.1 4.5
男性(n=736) 34.0 41.2 13.2 8.6 3.1
⑧ 裁判官・検察官・弁護士
R1 年佐賀県調査(n=788) 31.6 46.4 15.1 2.7 4.2
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 36.4 41.2 10.6 8.2 3.6
女性(n=942) 38.5 40.4 9.8 7.2 4.0
男性(n=736) 34.8 41.6 11.7 9.1 2.9
⑨ 医師、歯科医師
R1 年佐賀県調査(n=788) 37.9 46.7 8.9 2.4 4.1
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 40.8 41.4 7.7 6.5 3.6
女性(n=942) 42.3 41.6 6.8 5.4 3.9
男性(n=736) 40.1 40.8 8.8 7.3 3.0
⑩ 農協など団体の役員
R1 年佐賀県調査(n=788) 25.8 46.7 19.0 3.6 4.9
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 33.0 43.0 13.3 7.2 3.5
女性(n=942) 33.9 43.4 12.1 7.0 3.6
男性(n=736) 32.6 42.4 14.7 7.2 3.1
⑪ 会社の管理職
R1 年佐賀県調査(n=788) 30.1 49.0 14.2 2.3 4.4
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 36.5 43.7 9.9 6.1 3.7
女性(n=942) 39.0 43.1 8.7 5.2 4.0
男性(n=736) 34.5 44.3 11.1 6.9 3.1
⑫ 経営者・起業家
R1 年佐賀県調査(n=788) 32.9 48.9 11.4 2.4 4.4
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 39.5 42.0 8.6 6.4 3.5
女性(n=942) 41.4 42.1 7.5 5.3 3.6
男性(n=736) 38.3 41.4 9.9 7.3 3.0
⑬ 自治会長・ＰＴＡ会長
R1 年佐賀県調査(n=788) 27.2 46.1 19.3 3.3 4.2
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 35.1 41.4 13.0 7.1 3.4
女性(n=942) 36.0 41.2 13.1 5.9 3.8
男性(n=736) 35.2 41.2 12.8 8.2 2.7

## 【配偶者からの暴力について】

【配偶者・恋人・パートナーがいる人がお答えください】

問１６　あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次の①～⑩のことをされた経験がありますか。「ある」もしくは「ない」どちらか１つに○をつけてください。

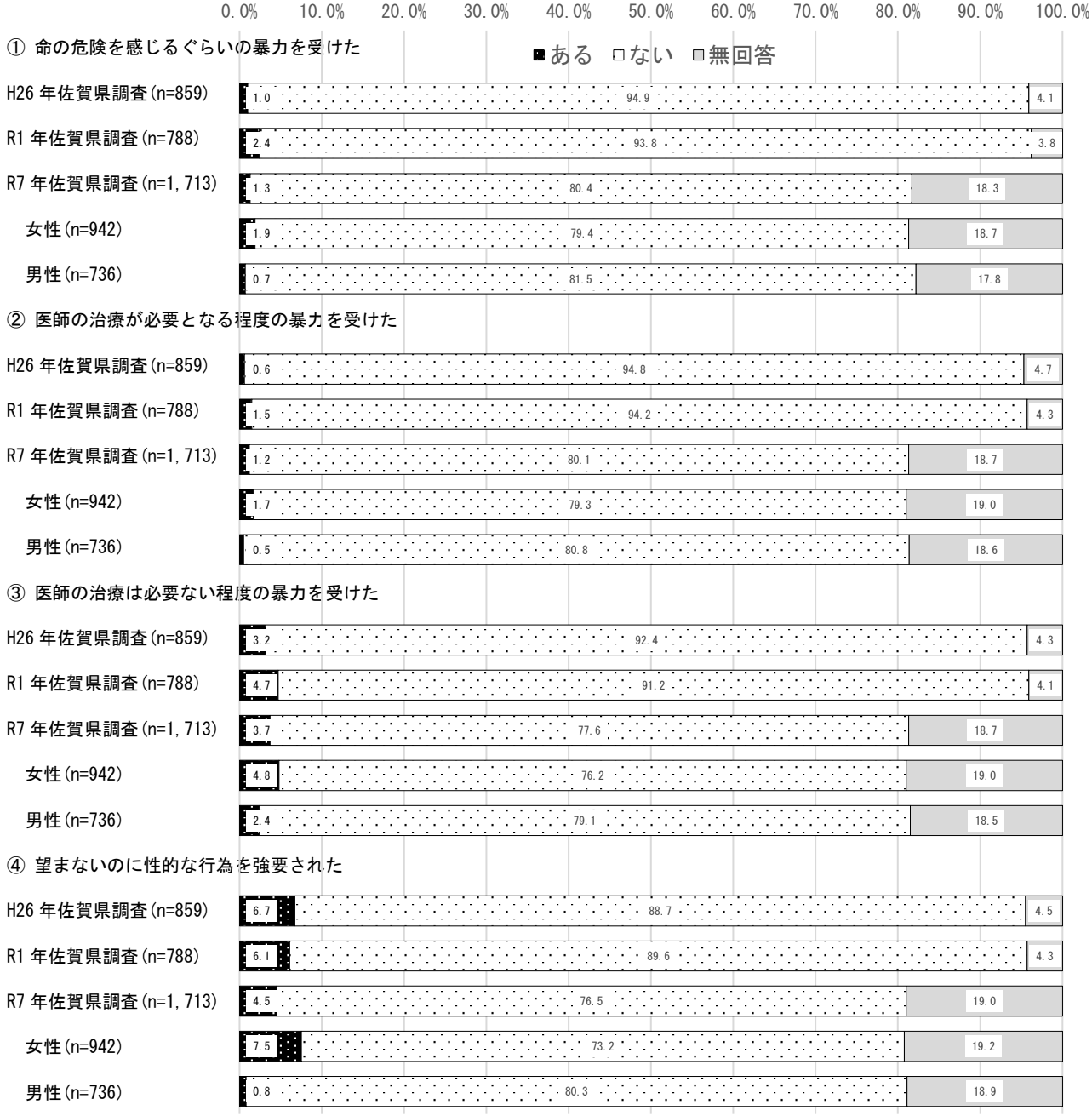
配偶者等からの暴力経験者は 19.6%。
受けた被害は「⑧ 大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた」が 14.0%でトップ

配偶者からの暴力は全ての項目で「ない」が 67.3%以上で高くなっており、「ある」が 14.0%以下となっている。また、配偶者や恋人・パートナーがいると答えた８５９名のうち、何らかの DV を受けたことがあると答えたのは、３３６名（１９，６％）であった。

「ある」が最も高かったのは「⑧大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた」の 14.0%、次いで「⑨馬鹿にされたり、暴言を吐かれた」が 12.7%、「④望まないのに性的な行為を強要された」が 4.5%と続いており、性別では全ての項目で「ある」は女性が男性を上回っている。

経年比較で「ある」は全ての項目で令和 1 年調査より減少しており、最も減少したのは「⑧大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた」の▲8.5 ポイント、次いで「⑨馬鹿にされたり、暴言を吐かれた」が▲7.9 ポイント、「⑥何を言っても長期間無視され続けた」が▲6.8 ポイントであった。

※R1 年 H26 年：「週に 1 回以上」「月に数回程度」「年に数回程度」「過去数回ある」は「ある」に集約している。



■ある □ない ■無回答
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%
⑤ 妊娠を望まないのに、避妊してもらえなかった
H26 年佐賀県調査(n=859) 1.4 93.9 4.7
R1 年佐賀県調査(n=788) 4.8 88.1 7.1
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 3.4 76.4 20.2
女性(n=942) 5.8 75.1 19.1
男性(n=736) 0.5 77.7 21.7
⑥ 何を言っても長期間無視され続けた
H26 年佐賀県調査(n=859) 10.4 84.9 4.4
R1 年佐賀県調査(n=788) 11.2 84.0 4.8
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 4.4 76.5 19.1
女性(n=942) 5.2 75.4 19.4
男性(n=736) 3.7 77.6 18.8
⑦ 交友関係や電話、メール等を細かく監視された
H26 年佐賀県調査(n=859) 5.7 89.5 4.8
R1 年佐賀県調査(n=788) 6.6 89.1 4.3
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 3.4 77.5 19.1
女性(n=942) 3.6 77.1 19.3
男性(n=736) 3.4 77.7 18.9
⑧ 大声でどなられたり、威圧的な物言いをされた
H26 年佐賀県調査(n=859) 17.5 78.7 3.7
R1 年佐賀県調査(n=788) 22.5 73.7 3.8
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 14.0 67.3 18.8
女性(n=942) 18.6 62.5 18.9
男性(n=736) 8.7 72.6 18.8
⑨ 馬鹿にされたり、暴言を吐かれた
H26 年佐賀県調査(n=859) 6.0 89.6 4.3
R1 年佐賀県調査(n=788) 20.6 75.1 4.3
R7 年調査(n=1,713) 12.7 68.4 18.9
女性(n=942) 15.8 64.9 19.3
男性(n=736) 9.2 72.3 18.5
⑩ 経済的に押さえつけられた（生活費を渡さないなど）
H26 年佐賀県調査(n=859) 2.2 93.4 4.4
R1 年佐賀県調査(n=788) 6.2 89.6 4.2
R7 年佐賀県調査(n=1,713) 3.0 78.1 19.0
女性(n=942) 3.9 76.9 19.2
男性(n=736) 1.9 79.3 18.8

【問 16 の①～⑩でひとつでも「ある」を選んだ方がお答えください】

問１６-１　配偶者からの暴力を経験した際、誰かに相談しましたか。あてはまるものを選んでください。

【問 16-1 で「２．相談しなかった」と答えた方がお答えください】

問１６-２　相談しなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

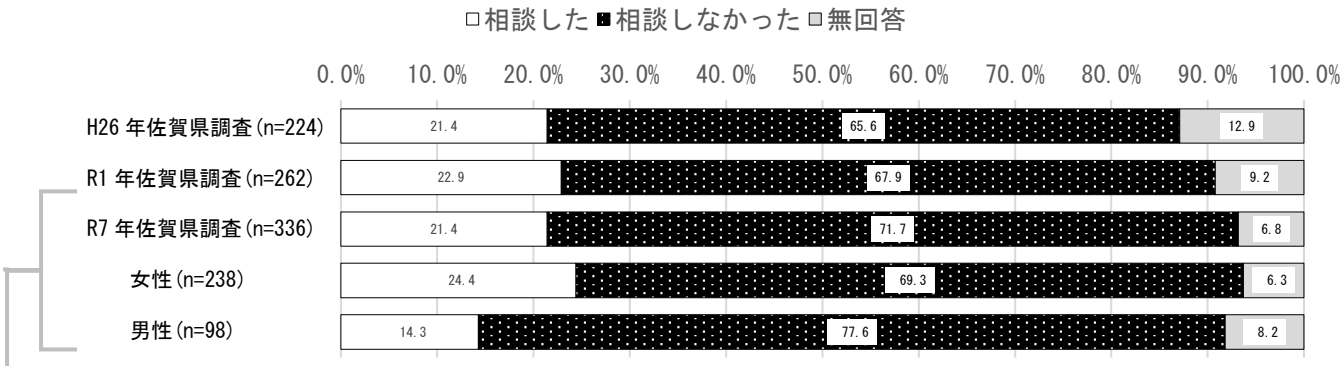
**DV 経験の 71.7%は「相談しなかった」、理由は「相談するほどのことではないから」が 55.2%。**

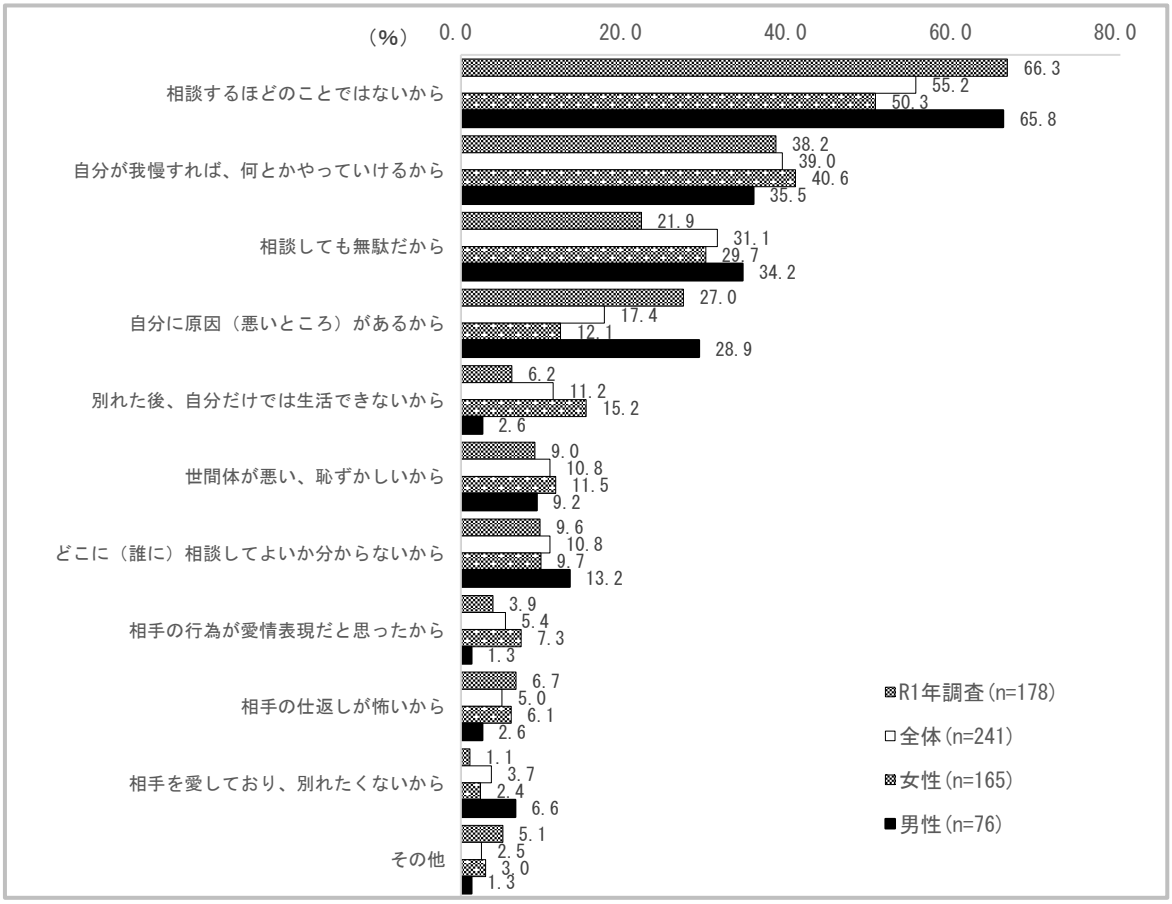
全体で「相談した」は 21.4%、「相談しなかった」は 71.7%となっており、性別での傾向の相違はないが「相談した」は女性の方が 10.1 ポイント高くなっている。

経年比較で「相談した」は令和 1 年調査と比べ 1.5 ポイント減少している。

「相談しなかった」理由は「相談するほどのことではないから」が 55.2%で最も高く、次いで「自分が我慢すれば、何とかやっていけるから」が 39.0%、「相談しても無駄だから」が 31.1%と続いており、性別での相違はみられないが、男女間の乖離が大きいのは「別れた後、自分だけでは生活できないから」で女性が 12.6 ポイント高く、「自分に原因（悪いところ）があるから」で男性が 16.8 ポイント高くなっている。

経年比較で減少が最も大きいのは「相談しても無駄だから」が 11.1 ポイント減少であった。



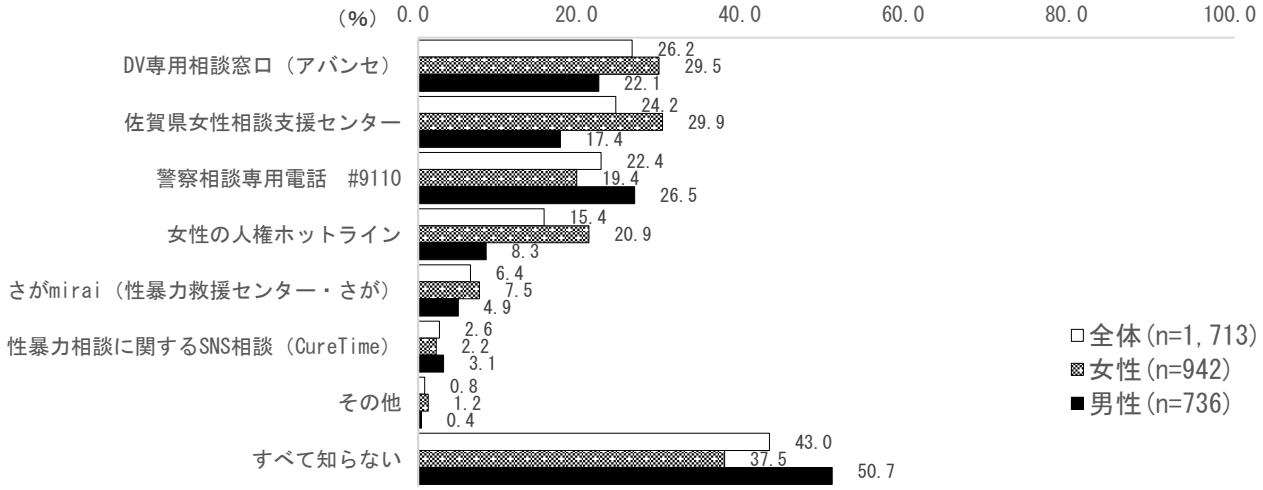
【全員がお答えください】

問１７　ＤＶや性暴力の悩みを相談できる窓口などであなたが知っているものは何ですか。
（○はいくつでも）

「DV 専用相談窓口（アバンセ）」が 26.2%でトップ、
「すべて知らない」は 43.0%と相談窓口の認知度が低い。

全体では「DV 専用相談窓口（アバンセ）」が 26.2%で最も高く、次いで「佐賀県女性相談支援センター」が 24.2%、「警察相談専用電話　#9110」が 22.4%と続いており、「すべて知らない」は 43.0%となっている。

性別で見ると女性は「佐賀県女性相談支援センター」が 29.9%で最も高く、次いで「DV 専用相談窓口（アバンセ）」が 29.5%、「女性の人権ホットライン」が 20.9%と続き、「すべて知らない」は 37.5%となっており、男性は「警察相談専用電話　#9110」が 26.5%で最も高く、次いで「DV 専用相談窓口（アバンセ）」が 22.1%、「佐賀県女性相談支援センター」が 17.4%と続き、「すべて知らない」は 50.7%となっている。



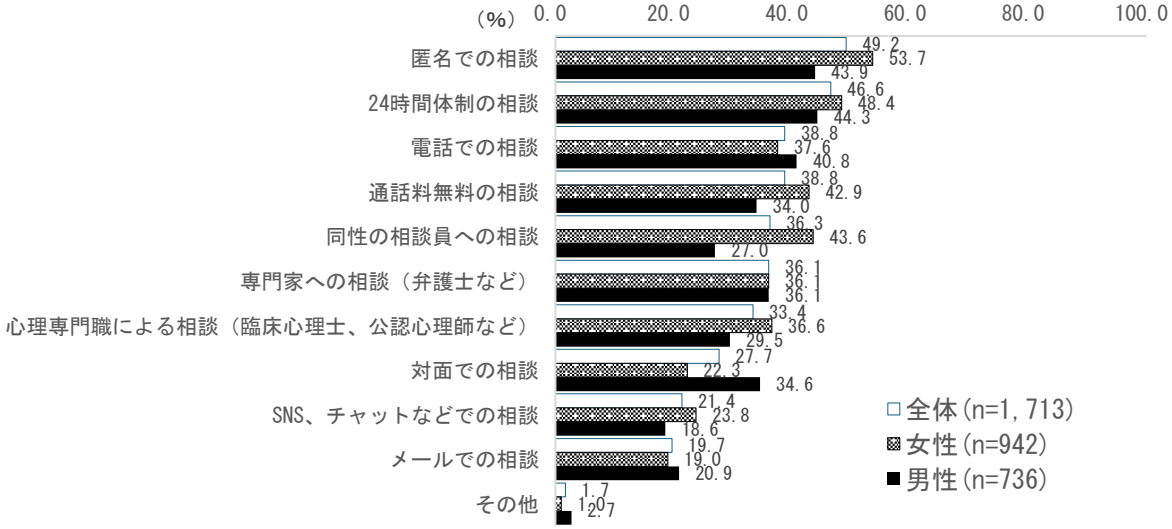

【全員がお答えください】

問１８　ＤＶや性暴力被害の相談窓口で対応してほしいことは何ですか。（○はいくつでも）

「匿名での相談」が 49.2%でトップ。

全体では「匿名での相談」が 49.2%で最も高く、次いで「24 時間体制の相談」が 46.6%、「電話での相談」・「通話料無料の相談」が 38.8%と続いている。

性別で見ると男性は全体との傾向に相違はみられないが、女性は「同性の相談員への相談」が 43.6%で 3 位項目に上がっている。



## 【男女共同参画社会の実現について】

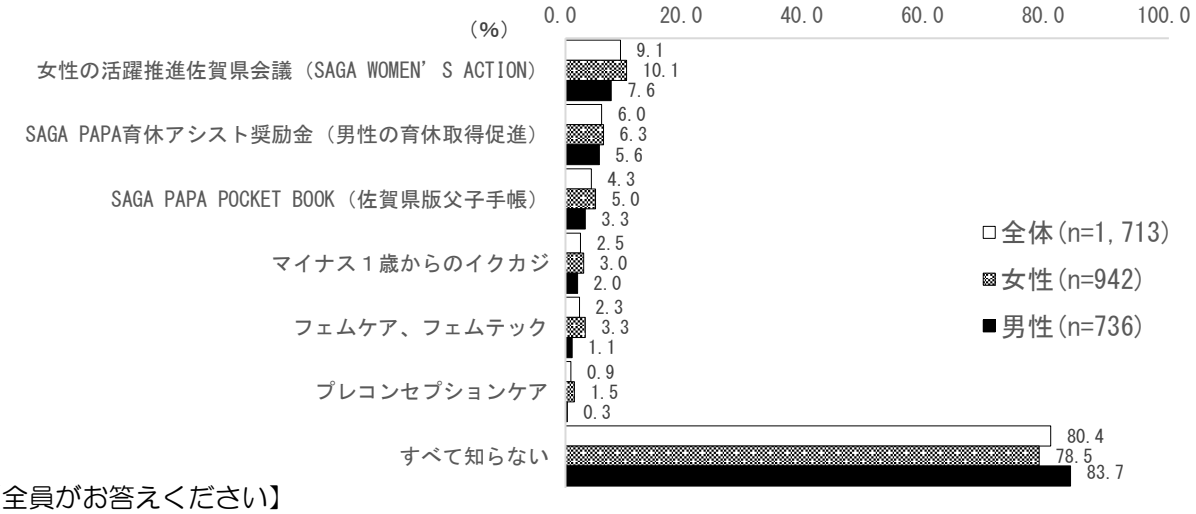
【全員がお答えください】

問 19　県では誰もが個性と能力を発揮できる社会の実現に向けて、様々な取組を行っています。あなたが知っているものはどれですか。（○はいくつでも）

「女性の活躍推進佐賀県会議（SAGA WOMEN’S ACTION)」が 9.1%でトップ。
「すべて知らない」が 80.4%と県の取組の認知度は低い。

全体では「女性の活躍推進佐賀県会議（SAGA WOMEN’S ACTION)」が 9.1%で最も高くなっており、次いで「SAGA PAPA 育休アシスト奨励金（男性の育休取得促進)」6.0%、「SAGA PAPA POCKET BOOK（佐賀県版父子手帳)」が 4.3%で続いており、「すべて知らない」が 80.4%となっており、県の取組への認知度は低い。

性別で男女の傾向の大きな相違はみられない。



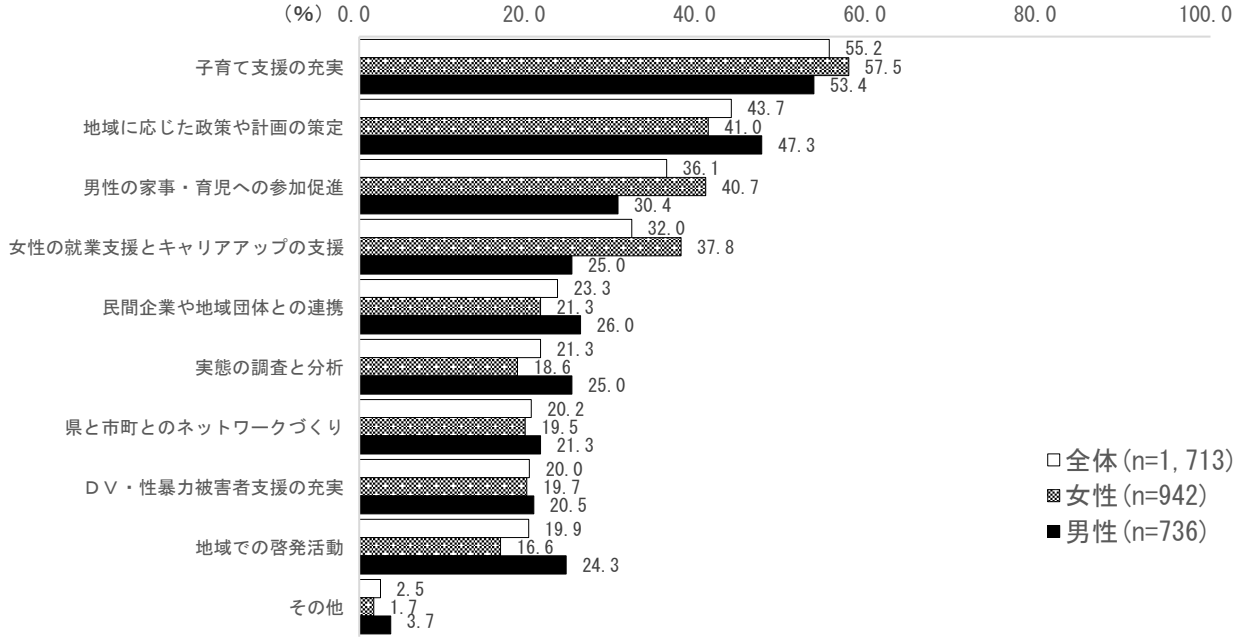

【全員がお答えください】

問２０　あなたは、県や市町の行政機関は男女共同参画社会づくりのために何をすべきだと思いますか。（○はいくつでも）

「子育て支援の充実」が 55.2%でトップ。

全体で「子育て支援の充実」が 55.2%で最も高く、次いで「地域に応じた政策や計画の策定」が 43.7%、「男性の家事・育児への参加促進」が 36.1%と続いている。

性別で見ると女性は全体との傾向に相違はみられないが、男性は「民間企業や地域団体との連携」が 26.0%で４位項目に上がっている。



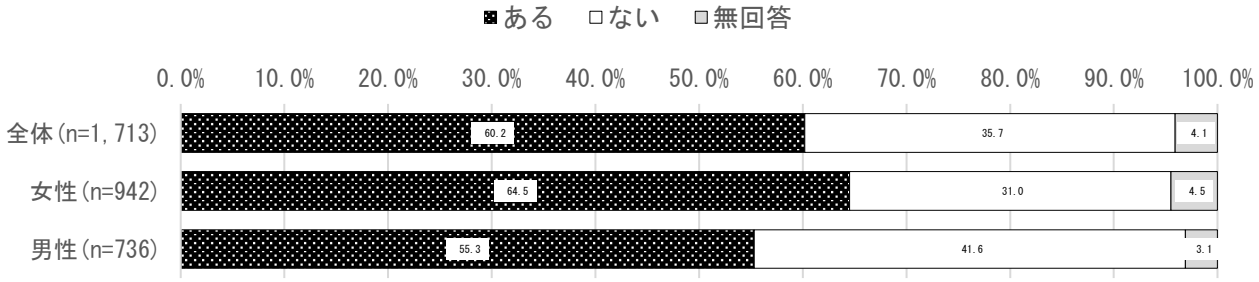
## 【健康課題について】

【全員がお答えください】

問２１　家族やパートナー、同僚など周りの女性の生理やＰＭＳ、更年期症状による体調や機嫌の変化を感じたことはありますか。

「ある」が 60.2%で、「ない」が 35.7%。

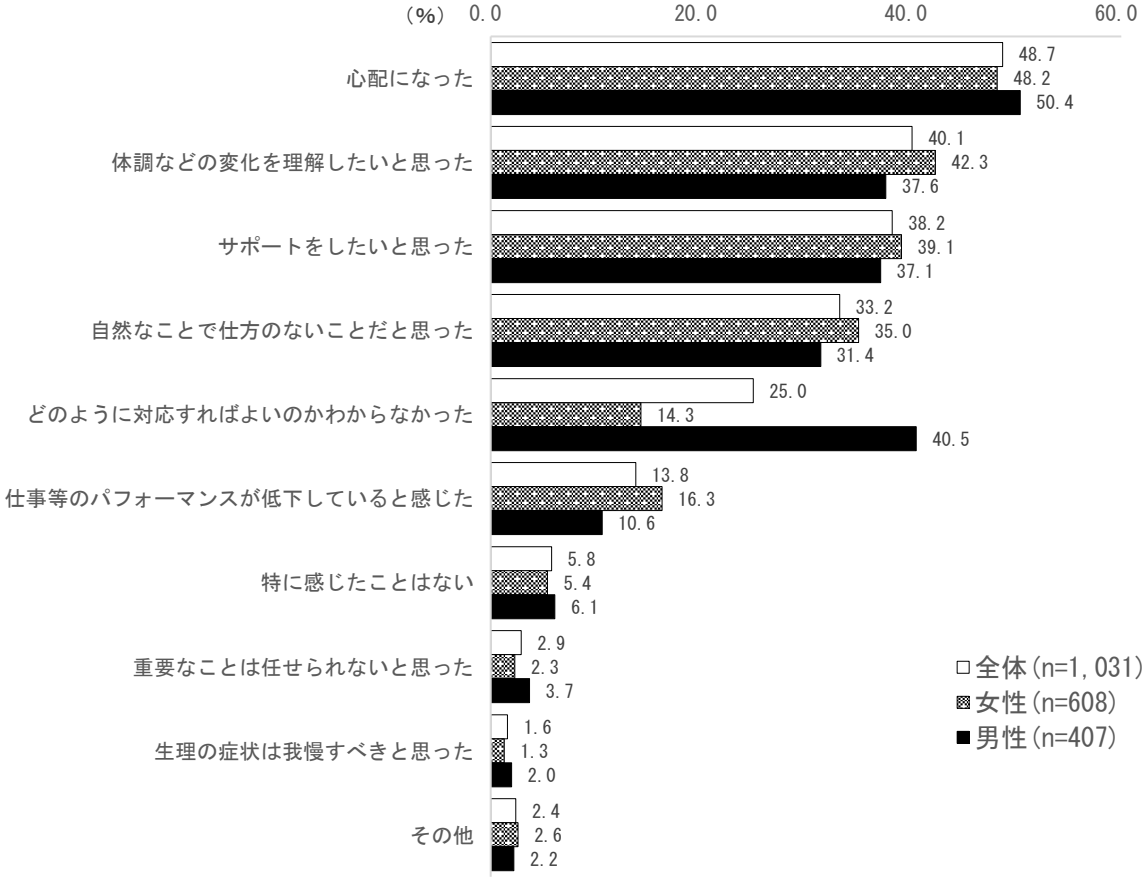
全体で「ある」が 60.2%で、「ない」が 35.7%となっている。
性別での傾向の相違はみられず、「ある」は女性の方が 9.2 ポイント高くなっている。
性年代別で「ある」の傾向をみると、男女ともに 40 歳代以上で年代の上昇に伴い減少の傾向がみられる。(※：PMS=月経前症候群)




※「ある」と回答した方は、その時感じたことをすべて選んで○を付けてください。

「心配になった」が 48.7%でトップ。

全体で「心配になった」が 48.7%で最も高く、次いで「体調などの変化を理解したいと思った」が 40.1%、「サポートをしたいと思った」が 38.2%と続いている。
性別で見ると女性は全体との傾向に相違はみられないが、男性は「どのように対応すればよいのかわからなかった」が 40.5%で 2 位項目に上がっている。

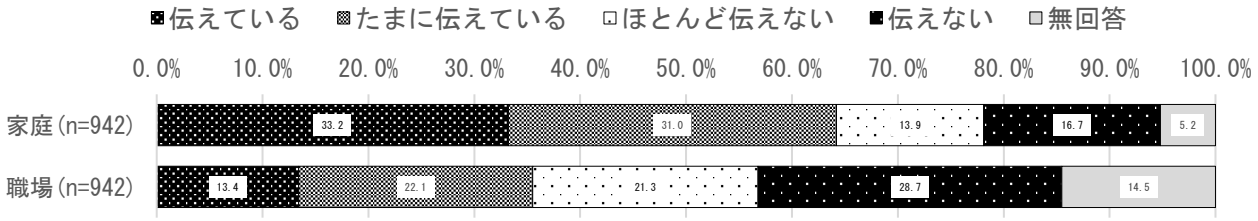


【女性がお答えください】

問２２　あなたは、家庭や職場で生理・PMS・更年期の症状などの体調不良を周りに伝えていますか。（○はそれぞれ１つ）

「家庭」で「伝えている」が 33.2%でトップ、「職場」で「伝えない」が 28.7%でトップ。

全体で「家庭」では「伝えている」が 33.2%、次いで「たまに伝えている」が 31.0%、「伝えない」が 16.7%、「ほとんど伝えない」が 13.9%の順となり、「伝える（「伝えている」＋「たまに伝えている」）」は 64.2%、「伝えていない（「伝えない」＋「ほとんど伝えない」）」は 30.6%となっている。また、「職場」では「伝えない」が 28.7%で最も高く、次いで「たまに伝えている」が 22.1%、「ほとんど伝えない」が 21.3%、「伝えている」が 13.4%の順となり、「伝える」は 35.5%、「伝えていない」は 50.0%となっている。



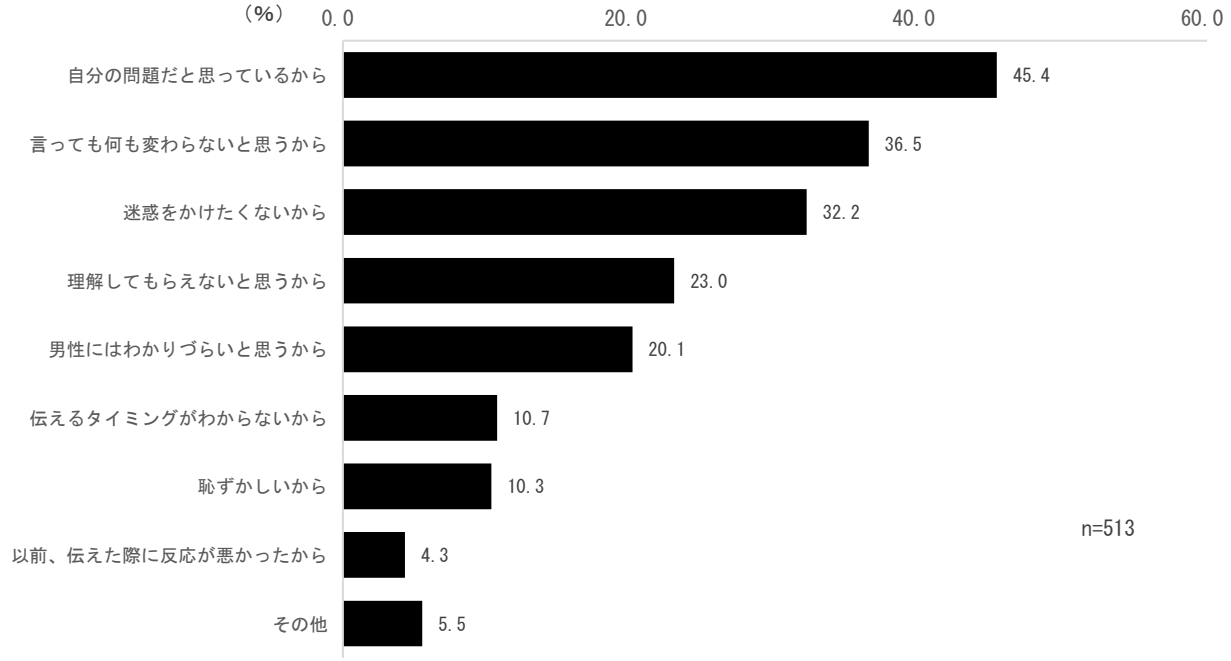

【問 22 で３または４を選んだ方がお答えください】

問２２-１　その理由は何ですか。（○はいくつでも）

「伝えていない」は 54.5%、理由は「自分の問題だと思っているから」が 45.4%でトップ。

女性の回答者 942 名のうち、生理・PMS・更年期の症状などの体調不良を周りに「伝えない」、「ほとんど伝えない」と答えたのは、513 名（54.5%）であった。

「伝えていない」理由は全体で「自分の問題だと思っているから」が 45.4%で最も高く、次いで「言っても何も変わらないと思うから」が 36.5%、「迷惑をかけたくないから」が 32.2%と続いている。

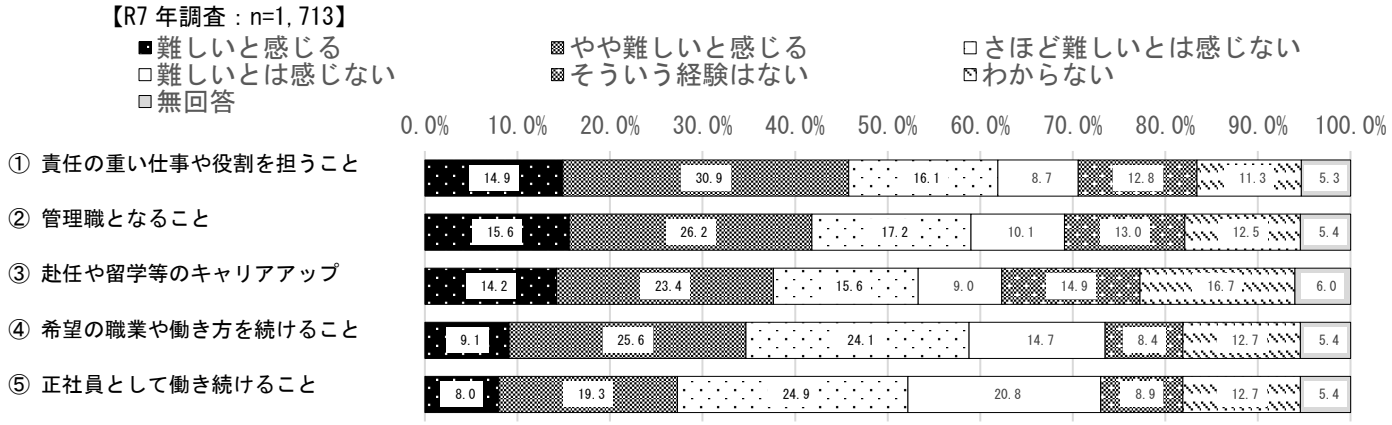


【全員がお答えください】

問２３　男性や女性の特有の健康課題を抱えることで、どのようなことに難しさを感じますか。（○はそれぞれ１つ）

「難しい」のは「①責任の重い仕事や役割を担うこと」が 45.8%でトップ。

全体で「難しい（「難しいと感じる」＋「やや難しいと感じる」）」と「難しくない（「難しいとは感じない」＋「さほど難しいとは感じない」）」で見ると、「①責任の重い仕事や役割を担うこと」は「難しい」が 45.8%、「難しくない」が 24.8%、「②管理職となること」は「難しい」が 41.8%、「難しくない」が 27.3%、「③赴任や留学等のキャリアアップ」は「難しい」が 37.6%、「難しくない」が 24.6%、「④希望の職業や働き方を続けること」は「難しい」が 34.7%、「難しくない」が 38.8%、「⑤正社員として働き続けること」は「難しい」が 27.3%、「難しくない」が 45.7%となっており、「難しくない」が「難しい」を上回ったのは「④希望の職業や働き方を続けること」と「⑤正社員として働き続けること」となっている。



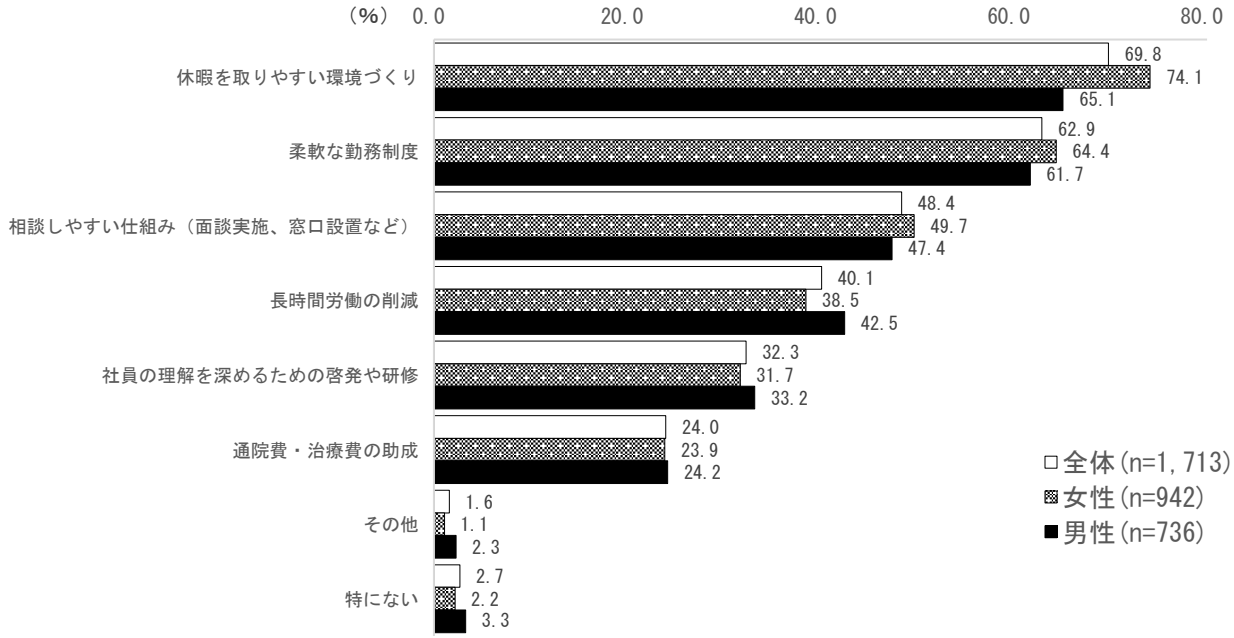

【全員がお答えください】

問２４　男性や女性の特有の健康課題を抱えている時でも、普段と変わらない能力で仕事をするために、職場に必要なものは何ですか。（○はいくつでも）

「休暇を取りやすい環境づくり」が 69.8%でトップ。

全体で「休暇を取りやすい環境づくり」が 69.8%で最も高く、次いで「柔軟な勤務制度」が 62.9%、「相談しやすい仕組み（面談実施、窓口設置など）」が 48.4%と続いている。

性別での傾向の相違はみられない。



F８　県で進めている「性別にかかわりなく、互いを尊重し、誰もが個性と能力を発揮できる佐賀県づくり」の実現のために、ご意見やご要望がありましたら自由にお書きください。

【意見・要望の項目別件数（重複あり）】

| 種類（カテゴリ） | 件数 | 内容（一部抜粋） |
|---|---|---|
| 家庭・子育て/家事分担 | 87 | 「男性が、女性が…と言ってる時点で性差別。能力のある人が仕事をやればいいし、家事もやりたい人が…」<br>「もっと子育て支援をしてもらえれば、女性ももっと働きやすくなったり…」<br>「現在、いろいろな子育て支援があって良い事だと思います。男性も…育児にも協力する方も増えているようです…」等 |
| 仕事・職場/働き方 | 84 | 「家で待つ子どもや高齢者がいると…管理職や役員などをつとめることが難しい…柔軟な制度が会社にもできれば…」<br>「私の職場では男性の育児休暇が取得しにくいです…制度はあってもそれを利用できない環境があります。」<br>「性別にかかわりない仕事場での能力評価。子供ができた時の会社側のバックアップ…」等 |
| 公平・差別・偏見/尊重 | 67 | 「まずは男女差別をなくす。それが実現すれば、互いを尊重し、誰もが個性と能力を発揮できる社会が出来ると思う。」<br>「男女差別を無くし、相互扶助の精神で尊重しあえる社会を目指し…」<br>「…東大合格者進学は、何故男性が多のか？…小学生のレベルでは、男女能力の差は全くありません…」等 |
| 教育/啓発 | 53 | 「学校教育での男女平等」<br>「学校教育で義務教育の段階で性教育を促進した方が…理解が深まる可能性が高まる…」<br>「今回の問題は、小、中、高からの教育の現場からの取り組みがとても大切…」等 |
| 男女共同参画の重要性/推進 | 33 | 「このような意識調査があることで、男女共同参画社会づくりというものがあることを知りました。意識改革が広まれば良いと思います。」<br>「…女性側の意識改革も必要である。そのためには幼少期からの男女平等の教育や男女共同参画などの啓発研修が必要であると感じている。」<br>「アバンセは…真に共同参画の拠点となるよう切に望みます。」等 |
| 地域・自治/ボランティア | 30 | 「…私は、現在、町区の運営委員(7 名)…女性に投票したいと思っています。」<br>「地域の役員(組長、体育・防災委員)が高齢化しており、ムリが目立つ…」<br>「…人口減少により、地域、自治体が成立しないので、男女が協力し…」等 |
| 制度・取組の説明不足/周知不足 | 29 | 「互いを尊重することについて、◎具体的にどのようなことか、◎どうすることなのか、などの説明が分かり易くしてもらったら良いと思います。」<br>「…置かれている環境がちがう人達の集まりが社会なんだということが周知されたら良いなと思う。」<br>「教育の場、民間企業に啓発週間を設けて周知活動を行った方が良いと思います。」等 |
| 高齢・退職/世代 | 31 | 「80 才になり退職後 30 年経過しており、年と共に考える事がめんどうになっております…」<br>「…高齢者が車免許返納で地区公民館の活動が活発となっています…補助金等を出資して下さるとありがたい…」<br>「年金生活者の高齢者への支援…規制々々で高齢者をはみださない支援が必要…」等 |
| その他 | 78 | 「適材適所」<br>「期待しております」<br>「よくやってると思う」等 |
| 意見なし/肯定 | 19 | 「意見や要望はありませんが、佐賀は住みやすく、良い所、良い県だと思います。お疲れ様です。ありがとうございました。」<br>「『男女共同参画社会づくりのための県民意識調査』の皆様へ：何かと大変と思いますが、色々とまとめ、お願いします。お疲れ様です。ありがとうございます。」<br>「…今回のアンケートへの回答で、改めて自分自身が考え反省させられる点も有りました。逆にありがとうございます。」等 |